

朝、登記情報を見たら、実はもう登記が完了しているんじゃないかと、つまらないことを考えていましたが、夕方になっても、完了しませんでしたね。

私自身、以前、大きな会社さんのお仕事をさせてもらっていて、特に商号変更の時は、完了するまで少しも待てないような切迫感がありました。あんなことは、もう二度とありません。

少しの時間謄本が取れないだけで、多くの方面に不都合が生じる以上、会社の対応として当然だったと思います。

2012. 07. 03

好きなことを仕事にする

雑談も含めて、「本当は他の仕事をやりたい」といったお話を聞くことがあります。

趣味との境もなくやってる私にすれば、「仕事が好きではない」ことは考えにくい面がありますが、それは私が幸せなのであって、

実際のところ、本当に好きなことを仕事にされている方の割合は、どのくらいでしょう？

「好きになるまでやればいい」という考え方もあるでしょうけど、例えば、私が苦手だと思える「飛び込みの営業」をいくらやっても、好きになれるとは思えません。

与えられた立場があるのであれば、その中で精一杯のことをするのは、好き嫌いに関係なく必要なことですが、

「好き」という感情以上に、パワーを出せるものはないような気がします。

2012. 07. 04

変動金利の仕組みなど

今日は、住宅ローンの借り換えのお仕事で、金消契約に同席。権利証をお預かりし、当日の段取り等をご確認すると、司法書士としての役割は終了ですが、銀行の方がされている変動金利の仕組みに関するご説明など、自分もどこまで同じように話ができるだろう…と考えながら聞いていました。

その後は、地下鉄を使って、大阪市内を行ったり来たり。本を読んでいる時間もありましたが、スマホでフェイスブックやツイッターを見ていると、あっという間に充電の残量が減っていきます。

猪瀬直樹さんの「決断する力」には、ツイッターが災害時にどれだけ役に立つかという話が出ていましたが、「いざ」という時にどうやって充電するか、考えておかなといけません。

2012. 07. 05

指揮者の立場と職人の立場

事務所の中での私の立場は、指揮者でありながら、一人の職人です。

一時期は、できるだけ指揮者の立場に立てるようにと考えていましたが、最近は、また職人の方に傾きつつあります。

手が足らなくて、そうならざるを得ない状況にあるのですが、職人の腕が鈍ると、もう戻って来れない気がするので、磨けるうちは磨き続けなさい、ということなのだろうと。

スタッフからは、私の姿を見て「カルチャーショックを受けた」と言われましたが、

個人事務所の弱い部分でもあり、強い部分でもあります。

2012. 07. 06

立ち食いうどんでも「接客」

今日のお昼は、駅の立ち食いうどん。

値段にしては十分な味でしたが、それはそれとして、狭いスペースの中で、注文に合わせて動き回る2人の店員さんの動きに関心していました。

新規の客が止まったら、いつの間にか下準備や洗い物に移動。

器を片付けずに帰っていくお客、の動きも見ています。

料理を出す時の「お待たせしました」の一言も自然で、感じがよかったです。

元々、その人が持っている部分でしょうかね。

サービスに期待するつもりがない店で、「店員さんの感じ」が印象に残るのですから、商売をしていく中で「感じ」がどれだけ大事か、ということを感じました。

2012. 07. 07

「価値」を伝えること

『安売りするな！「価値」を売れ！』（藤村正宏著）

いろんなところで安売り競争をされていて、ひとりの消費者としてはうれしい部分もありますが、例えば、商店街で200円



台の弁当が売られているのを見ると、逆に大丈夫なんだろうか？と心配になります。

この本では、「商品・サービス・会社・ブランドの独自の価値をお客様に伝える」ことで、売り上げは圧倒的に伸びるものである、ということ、

著者が実際にコンサルタントされてきた経験を通じて、説明されています。

ウチの事務所に対する問題提起も、たくさん含まれている気がするので、しばらく手元に置いて、考えてみることにしましょう。

「普通にやっていたら、売上が下がるのは当たり前です。」（本書の表現のまま）という部分、心に留めておきたいです。

2012. 07. 08

「決断する力」読みました

『決断する力』（猪瀬直樹著）

「緊急時にこそ必要となる決断力と優先順位の付け方」等、東京都副知事の著者が、東日本大震災の時系列に沿って書かれていて、伝わりやすかったです。

リーダーの立場にいる人はどう

あるべきかということと、特に印象に残ったのが、震災時に役に立ったというツイッターの存在。

「いざ」という時のための備えが、「水や食料を保管しておく」ことに限らないことが、分かります。

「有事に機能するのは、秀才ではなく変人」という話は共感。

自分のことを「変人」だと言える器も必要。



政治への批判、原発のこと等も含め、副知事ならではの視点、明確な意見が書かれていて、いろんなことを考えさせてもらえます。

2012. 07. 09

病気になった時の支え

今日の接客は、債務整理の打ち合わせ、売買の事前確認、抵当権抹消のご依頼など。

仕事の話の他に、突然ガンの存在が分かったり、脳梗塞で倒れたりというお話も聞き、気をつけないといけないですね…という話もしていました。

といっても、健康でいれることのありがたさは、不自由になって初めて気付けるものかもしれません。

病気で収入が途絶えると、金銭的なことでも問題が生じますが、そんな時でも支えてくれるご家族がいてくれるかどうか。

医療保険や生命保険に入っておくことも大事かもしれませんが、明るく接しておられるご家族の姿を見るたび、それと同じか、それ以上に大事なこともあるような気がします。

2012. 07. 10

野球場で味わう臨場感

今日は朝から、住宅ローンの借り換えのお仕事。

抹消書類をもらうため、1件目の金融機関はお客様と待ち合わせ。2件目は委任状をいただき、代わりに受領可能。

法務局で、汗を流しながら書類

のセットをしている間、登記相談の窓口から話し声が聞こえてきますが、添付書類の書き方から、かなり細かいことまで対応していますね…。

さて、夜は、大阪ドームへ。

プロ野球の公式戦を見に行くのは十数年ぶりでしたが、プロ野球ってこんなにいいものだったんだ…という魅力に、改めて気付かせてもらえました。続きは、また改めて…。



2012. 07. 11

収入印紙購入のサイクル

登記申請の際に国に納める登録免許税は、収入印紙を貼付して法務局に提出します。私の事務所の場合、オンライン申請の場合も収入印紙で。

「登記費用」「司法書士費用」という括りで見られると余計に、「司法書士の報酬は高い」と受け止められることもあるでしょうけど、

その中の登録免許税は税金なので、お客様が国に納める分をお預りして、代わりに納付しているだけです。

ところが、余程高額でない限り、事務所で立て替えて印紙を購入し、報酬の請求時にまとめて入金していただくことも多くて、最近では、過去に完了した仕事の分の入金があると、すぐに次の分を立て替えて購入し…というサイクルを繰り返しています。

仕事は落ち着かない方がいいので、購入のサイクルが早いのはありがたいことなのですが、少なくとも月末には、口座残高として落ち着いてくれないと困る…という面もあります。

2012. 07. 12

変化を見落とすリスク

急ぎの案件のため、久しぶりに神戸本局まで出向きました。

阪神高速神戸線が15キロの渋滞ならと、湾岸線を走っていると、六甲アイランドに入ってしまった。こんな失敗、何度かしています。

法務局では、入口で名前を書いて、一時通行証（ICカード）をもらって、駅の自動改札と同じようなゲートから入りました。

しかし、私が知らなかっただけで、そのシステムになってもう2年になるんですね…。

知らなくても困らないことは構わないのですが、外に出ないで仕事をしていると、ちょっとした環境の変化を見落としてしまう可能性があります。

2012. 07. 13

改めて10年の区切り

時期が少しずれましたが、事務所開業10周年の記念にと、4人で食事に行きました。

イベントの時に利用させてもらっている「リストランテカスターニャ」さん。「初めての味…」という料理が、次々と出てきます。



今までを振り返ると、いい時に独立して、いいスタッフに恵まれて、それが一番だったと思います。

たくさんの事件ファイルを見て、どうやってやってたんですか？と言われますが、今まで一緒に仕事をしてくれたみんなのおかげ、という話をしていました。

次の10年も、楽しかったな、やることやったなと、後で振り返れるように、と思います。

2012. 07. 14

無理な広げ方をしない

今週のカンプリア宮殿は、吉田カバンの吉田輝幸社長。

細かい部分にまでこだわり、手間暇をかけて作り上げられる一方、その掟として、「広告費は使わない」「値下げをしない」を紹介されてました。

それでいてお客さんに支持されるのは、理想的です。

「自分の身の丈を知るといふか、きちっとした商品作りでものづくりをしていく。きちっとした自分のブランドを守っていくには、絶対に職人を守っていく代わりに、無理な広げ方をすることをしてしない。僕はそれが一番大事だと思う。それが最終的には、消費者の皆さんに価値のある商品を提供できる。そういった会社になれると思っている」

最後に社長が、言われていた上記言葉にも共感でした。

昨日事務所のメンバーから、「事務所を大きくするつもりは？」と聞かれましたが、即答で「全くない」でした。

もっとも、「大きくしたい」と望んでも、私にその力がないのも現実ですが、自分の目が届く範囲で納得いく仕事ができるように、と考えると、大量生産はできない、というところに行き着きます。

2012. 07. 15

やらなきゃ結果は出ない

今日は、久しぶりにゴルフのコースに。

予約なしで、お手軽に行ける岸和田の「泉州ゴルフ」です。

天気が良すぎ、予想以上の暑さに、1周（9H）だけ回ってきました。スコアは不明。。



週1回スクールに習いに行っても、復習も練習もせずにまた行くものだから、全然上達しない現実を理解しています。

仕事と違って、練習しなくても誰かに迷惑を掛けるわけではないですが、せっかく時間とお金を使っているんだから、もうちょっと力を注いでもいいでしょう。

やらなきゃ結果は出ない。
やったらやっただけの結果は出る。
仕事でも遊びでも、共通することです。

2012. 07. 16

涼みに天王寺まで

今日も真夏の日差し。

2日続けて外で遊ぶ元気はなかったので、涼みに天王寺まで。
「Hoop」「and」「キューズモール」で、マッサージと本屋、
買い物、昼食とウロウロしていました。

先日の「カンブリア宮殿」で影響を受けた「吉田カバン」の店
で、仕事用のカバンも購入。店内にはお客さんがたくさんで、店
員さん是对応に追われていましたね。

連休のおかげでリフレッシュできましたが、明日からはまた現実
に…。

気持ちを切り替えていきましょう。

2012. 07. 17

急かしたり急かされたり

書類待ち、連絡待ちで、「あともう少し」なのに前に進まず、事
務所の中で止まっている案件があるのは、債務整理関係に限りま
せん。

お声掛けして、前に進みそうなものは進めていきますが、日経
つと改めて書類を見返すことになったり、「待ち」の案件が積み
重なると負担になります。

一方では、「まだですか〜？」と、私が急かされることもあります。

言葉に出されなくても、「まだか？」と思われていることは、結構あるものかもしれません。

自分の思うように物事が進むと、お互いにストレスも少なくなりますが、なかなかそういうわけにはいかないので、

「待っている人がいる」ということと、「急かされるのはしんどい」ということの両方の立場を理解して、仕事をしていきたいものです。

2012. 07. 18

「兄貴を先に」は徹底

暑くなって、お茶の消費量が増えてきました。

冷蔵庫に作ってあるお茶の在庫は、2リットルの容器2本。

しかし、先に作ったお茶と、後で作ったお茶の区別なく飲まれると、両方が同時に減っていくので困ります。

前日の食材を「兄貴」、新しい食材を「弟」という、ということは、司法書士の受験生時代にしていたバイト先で教えられました。当然、「兄貴」を先に使うようにというルールは徹底されています。

ちなみに、「兄貴」よりも古い2日前の食材は「オオアニ（大きな兄貴）」と呼ばれ、「今日のおススメ」の対象になったりします（今ではそんなことをしていないでしょうけど・・・）。

今日は、CFP試験の合格発表だったので、司法書士の受験時代の記憶とリンクして、ふとそんなことを思い出していました。

2012. 07. 19

働き場があるのは幸せ

今までお受けした中で、一番筆数が多かった相続登記が完了しました。

道路部分が混ざっていたりして、数以上に時間がかかったのですが、権利証をお届けに行くと、「手間がかかったでしょ」と言って下さいます。

そうやって掛けていただけるお声に、救われます。

今日放送されていた「女の波乱万丈人生SPプロ野球選手の妻たち」見ました。華やかな世界の裏側にある、様々な生き方が見えて、私の好きな番組です。

千葉ロッテ、岡田選手の奥さんの堅実さは見習いたい。

そういえば、以前、戦力外になった時のことを取り上げられていた横浜の中村選手は、見事に蘇りました。「力を出せる場」のあることがいかに幸せなことか、ということが分かります。

2012. 07. 20

変えられることへの抵抗

オンライン申請で使用している司法書士の電子証明書。

今まで、カードリーダーにICカードを入れてその都度パソコンにつなげていたのが、ファイル形式に変わります。



特別な操作が面倒だと決めつけて、今まで敬遠していたのですが、ファイル形式で初めて電子署名してみたところ、簡単にできて拍子抜けでした。

むしろ、楽になりますね。

しかし、ちょっとしたことでも、システムを変えられるのはストレスで、「変わりたくない」と抵抗したくなるもの。

自分の意思で「変える」と決められるのではなく、何らかの形で強制されるのは特に、です。

2012. 07. 21

家族に思いを伝えておく

今日は祖父の月命日であることもあって、親戚で祖母宅に集合。少し高級な回転寿司屋に移動し、普段は頼めないようなお寿司も食べさせてもらいました。

味にはもちろん満足でしたが、お昼時を過ぎていたので、干からびた商品も、ずっと周り続けています。

見ているのが辛くて、いつ破棄されるんだろう？とずっと話をしていたのですが、店を出るまでそのままでした。そんなちょっとしたことで、ブランドが崩れてしまいますね。

自分の「お葬式の場所を変更したい」という話も聞きました。任意後見の契約をする中で、いろいろな希望は聞いていますが、家族の前で自分の思いを伝えておいてもらえると、残された者は助かります。

2012. 07. 22

掃除に意識が表れる

事務所のエアコンのフィルターを取り外して洗いました。スポンジでこすっていると、見た目以上にホコリが付いていたことが分かります。

自宅も、花火観覧のための来客予定なので、窓ガラスやベランダ

を掃除しました。毎年、この時期にしか触らない部分。

プライベートでも、人をお迎えなら「きれいにしておきたい」というのは、自然に働く意識ですが、それが仕事でお客様を迎える場であれば、「きれいにしておかなければならない」です。

例えば、窓からの眺望を売りにしていながら、窓が汚れている宿に行ったりすると、とても残念な気持ちになります。そういう部分に、経営者の意識が表れるもの、と思っています。



2012. 07. 23

ついでを楽しめる出張

今日は、急遽三重まで出向くことに…。

時間がかかっても郵送で済ますか、出向くのか？

考えたのは一瞬で、すぐに「ついでに寄れる温泉はないか？」と考えていました。



時間があればですが、「ついで」を楽しめる出張は歓迎です。
事務所に戻ると、普通に仕事。
発送すべき書類を送り出し、当日予約のご相談を終えると、夜8時でした。

2012. 07. 24

引いて見ること広く考えること

毎日、いろんなハプニングが起こります。
「根抵当権の変更登記だから、登記識別情報は出ない」と考えて、委任状を渡さずに事務所の司法書士に受領に行ってもらったところ、その前提に根抵当権の移転登記がありました。
「前に一度勘違いしたので、同じ間違いはほしくない」とも思っていました。
このことに限らずですが、ミス無くそうと、そのことだけを見ようとしてもダメ。
できるだけ視点を引いて、いろんな情報を頭に入れた上で判断していかないと、細かいミスは無くならないです。
保存登記を申請した後で、役所で振り分けられる住居表示が変わってしまった、という出来事もありました。
添付書面がまだ手元にあって幸いでしたが、「あり得ること」の幅は、広く考えることができるに越したことはないです。

2012. 07. 25

報酬は後からついてくる？

リーガルサポート宛に、1月から6月分までの「法定後見等事務遂行報告書」の発送を済ませました。

就任からちょうど1年になる分については、家庭裁判所に報酬付
与審判の申立。

事務所の運営を考えると、「報酬が1年後に決まる」「2年後に決
まる」というのは厳しい面もありますが、「報酬は後からついて
くる」と考えて、コツコツ積み重ねていくしかありません。

本来はどんな仕事であっても、「後からついてくる」「報酬のこと
など気にしていない」が理想ですが、なかなかそういう境地には
至れず。

現実には「今月も無事に乗り越えた…」の繰り返しです。

2012. 07. 26

保険料のコントロール

多くの家計を拝見していますと、一定の割合で、「保険が大好き」
という印象を受けるご家庭があります。

生活に余裕があるのであれば、その人の自由ということになるの
かもしれませんが、借入をしないと生活が成り立たなくなってい
るとしたら、その過程で削減することはできなかったのか、とい
う見方もできます。

万が一の「保険」は大事かもしれませんが、今の生活も大事。

保険料の支払いのために生活が振り回されるとしたら、それは本
末転倒だと思うんです。

本当に必要な保険なのかどうか、少なくともカードで借入をして
生活費を回す前に、一度見直しを検討していただければ、と思い
ます。

2012. 07. 27

仕事はひとつひとつ違う

昨日のカンプリア宮殿は、「コメダ珈琲店」の安田隆之社長。

「感動を呼ぶ接客術」の中では、「いつもと一緒に」とお客に言われると注文が通じてしまうとか、店長がその「いつもと一緒に」を100人分以上は記憶できているとか・・・。

しかも、その内容が「キュウリ抜きのサラダ」とか、「トーストのバターなし」とか…、チェーン店なのにそこまで細やかな対応ができていたという話に、驚きでした。

繰り返し書いていることですが、私の事務所でも、「人それぞれ」への対応はとても大事な部分です。

業務の内容は表向き同じであっても、お客様の望まれていること、背景、考え方は違います。

だから、前回他の方でやったことと次も同じようにすればいいと考えると、「それは違う」と言われる可能性がありますし、依頼者に「任せます」と言われたら、自分の好きなようにしたらいいと解釈するのも間違いです。

そのさじ加減も難しいところですが、ひとつひとつ違うんだという意識は、当然に持っていたいものです。

2012. 07. 28

いい道具を使うためには

お客様に作ってもらった高級包丁。

「もったいないから」という理由で収納されたままだったので、奥様が使う前に、使ってみました。

押さえなくても、軽く力を入れるだけで、包丁の重みで食材が切れます。指を切らないように、気をつけないと…。

と、いつものように、洗いもせずに放置して夕食を済ますと、一瞬のうちに錆が表面に浮かんでいました。

最初から、使いこなせるのかと心配になりましたが、いい道具を使うからには、それなりの心構えが必要？

ちゃんと手入れをして、長持ちさせないといけないですね。



2012. 07. 29

無意識に繰り返せること

「動じない。超一流になる人の心得」(王貞治 広岡達朗 藤平信一)

王さんや長嶋さんが、現役時代に合気道を習われていたのは、知りませんでした。



人が能力を発揮するするためには、力の抜き方が重要、自分を静かに保っていないといけない、という話から、なるほどなぁ…と引き込まれていきました。

しかも、その「リラックス」が無意識にできていないといけない。

できるようになるためには、正しい練習を繰り返すしかない、という話に続きます。

「力の抜き方」というと、ゆるい話なのかとも思いますが、その逆でした。

気持ちが乱れているといい仕事ができないのは、私の仕事でも同じ。仕事の中で緊張することがあるとしたら、イレギュラーな場面です。

最初は、「なんだ合気道の話か…」と思いながら読んでましたが、応用できる話がたくさんありました。

2012. 07. 30

それで仕事を失うとしても

今日は、不動産売買のご相談。

それぞれの守備範囲が違うので、不動産業者の方と一緒に訪問しました。

今回のことに限らず、不動産業者の方は、売買が成立することによって対価が発生します。

例えばですが、多少無理をしてもローン付けして売ろうとする姿勢が見えると、それは問題ではないかと感じていましたが、「とにかく買いたい」というのが依頼の趣旨であれば、立場上やむを得ないことかもしれないと、考えるようになっていきます。

でも、もし、専門家にはリスクが見えていて、依頼者の方に見えていないのであれば、たとえ目の前のお仕事が流れたとしても、

きちんとお話ししておかないといけないことはある、というのは、いつも心に留めていることです。

2012. 07. 31

まずは書類収集から

今日は、個人再生の書類作成を受任。

必要書類のご説明は、初回のご相談時にさせていただいていますが、完璧に近いレベルで揃えて来て下さいました。

揃えて下さる方にとっては、「それは普通のこと」ということになるのだと思いますが、

「債権者の書類がなかなか揃わなくて…」よりも、「依頼者にご用意してもらおう書類がなかなか…」のほうが圧倒的に多いのが現実です。

これから事務を進めていく中で、お受けする側としてはとても助かりますし、何か支障になる点が存在するようであれば、早い段階でご指摘することができます。

2012. 08. 01

P Lの花火大会

今日は、P Lの花火大会。

ベランダから花火を見てもらうという口実で、友達の友達、家族も含めて8人の来客。

相変わらず、3歳のボクがいい味出していました。私の背中



にスタンプを押されていたのには気付きませんでした。
メインのメニューは、自家製の広島焼きとタコ焼き。
食材は余りましたが、たくさん用意したはずのビールは足りませんでしたね…。
楽しい時間はあっという間に去り、夫婦2人に戻った時間が、妙に寂しかったりします。

2012. 08. 02

法律が持つ暴力性

成年後見の倫理の研修を見ていると、
「法律は暴力性を持っている。関係する人の立場を考えて、それを緩和していくのも法律家の役割ではないか。権限を持っているからといって、威圧的に請求してもいいのか」という話があり、とても印象的でした。
後見人就任時に、通帳を管理する家族に対して引き渡しを求めるケースでの話でしたが、「暴力性」があるというのは、こういうケースには限られないです。
例えば、一括では支払えないので分割払いを求めても、「支払日までの利息を付けた一括弁済」でないと和解に応じないとか、次に住む場所を確保できていないのに、家賃滞納のため家から出て行くよう強制執行をすとか、
立場によって、全く見え方が違ってきます。
「個々の依頼者の利益」を考えて行動するのは当然なのですが、「法律で正しい」ことが全てとは限らない、ということと、「正しい」からといってそれ以上の攻撃をしてはいけない、ということとは、頭に置いて仕事しています。

2012. 08. 03

ピンクのうちわ

「三国ヶ丘スピリット！」のうちわ。

私の事務所も、スポンサーとして名前を入れてもらいました。

大量にいただいたので、冗談で

「これから駅前で配りに行こうか」と言ったところ、スタッフ

の一人が本当に出掛けて行きました。

どこで配っているのかと見に行くと、三国ヶ丘駅出口周辺で、複数のピンクのうちわがユラユラしています。

暑いこともあって、多くの方が受け取って下さった様子。

自分たちが渡したものを使ってもらえる、ということ。

普段、なかなか実感することがないことなので、こういうのもうれしいものなんだな、と感じました。



2012. 08. 04

「経験」を見えやすく

歯医者 of インプラント治療。

半年以上かかりましたが、ようやく終了。

今のところ、途中で痛みが生じるようなこともなくて、順調です。

保険が利かないので財布には厳しいのですが、金額に相当する治療はして下さったと思います。これを機に改めて、口の健康管理には気をつけます。

インプラント手術をめぐるっては、トラブルも生じているようです。

それが、歯医者者の技術が不足していることが原因ならば、患者側として恐いこと。

「経験豊富」といったことを言うのは簡単ですし、数が全てではないですが、実際にどれだけの経験があるのか、客観的に見えるようにしてもらえれば、分かりやすいです。

それは司法書士の業界でも同じことなので、私とこのホームページでも「経験」を見えやすくできないか、少し考えています。

2012. 08. 05

勉強法が結果を分ける

『ふつうのOLだった私が2年で弁護士になれた 夢がかなう勉強法』（篠田恵里香著）。

妻が読んでいたので、気になって手に取りましたが、私自身は、「これは採用！」と、思えることは書かれてなかったです。



自分に合った勉強法は、人それぞれ。

有名な人が「こうしましょう」「こうすべき」と書かれている本を読んで、それをそのまま真似しようとするより、無名人でも、「自分はこうやった」と書かれているものを複数読むほうが、役に立つように思います。

菊間千乃さんの『私が弁護士になるまで』は、「自分はこうやった」のほうですが、私には菊間さんの「ありのまま」に書かれている本のほうが何倍も心に響きました。

それも好みの問題ですが、いずれにしても、資格試験の「勉強法」というのは、結果を分ける一番のポイント、であることは間違いないです。

2012. 08. 06

効果が見えれば楽しい

藤村正宏さんのブログに、こんなこと書かれてました。以下引用です。

勉強の苦しみは一瞬のものだが
勉強しなかった苦しみは一生続く
＜ハーバード大学図書館の壁に書いてあるコトバ＞

『学生の頃は、勉強嫌いだったな。
ほとんど大人になってから勉強しています。
大人になってからの勉強は、楽しいです。
それは、勉強することで、直接利益やメリットにつながったり、生きていくうえでより豊かになるから。
本当に日々勉強ですよ。
自分の興味のあること、好きなこと、スキルを高めることを日々意識して勉強することは楽しいです。』（以上、引用です）
勉強に限らずですが、先のことが見えるかどうかで、人の行動は変わってくるんでしょうね。
もっと勉強しとけばよかった・・・という後悔は、今の私の中にありますが、同じ思いは繰り返さないように、と思ってます。

2012. 08. 07

ホームページの原稿作り

お盆が近付き、鳴る電話といえば、「〇〇さんの返済が遅れています」ばかりになってきました。

そんな状況なので、新しいホームページの制作に着手。

いろいろな本や資料を読み込んで、実務の経験と統合。その上で、自分の言葉に置き換えて表現します。

なので、ホームページの原稿作りは、なかなか勉強になります。

「どこかで原稿作ってもらえたらいいのに？」という話も出しましたが、作ってくれる組織があるのは事実。

でも、自分たちが仕事をする土台となるものなので、他人が作った土俵の上で仕事をしたくはないです。

2012. 08. 08

親族後見人のお手伝い

裁判所に提出する前に、と、親族後見人になられている方の、事務報告書を見させてもらっていました。

「成年後見に関する問題事例集」には、

『親族後見人から事務報告書の作成の依頼に基づき、司法書士が事務報告書の全てを作成することは適切ではなく、作成の一部を援助しながら、次回より親族後見人が自ら作成できるよう指導するに留めるべきであろう』

とあり、そう言われるとそうなんだろうと思いますが、帳面が合っているかどうか、事務所の書式に打ち変えて確認するところまでしましょう、ということになりました。

道を歩いていると、急な階段を3段4段と上がらないと玄関に入れない、新築の家を見掛けました。

今までそんな視点で見たことはありませんが、足腰が不自由になると、上るのも大変になるだろうな、と感じました。

2012. 08. 09

一番になってもなお悔しい

写真は、昨日見た、三国ヶ丘で新築される予定のマンションのチラシです。

南向きに建築中の分譲マンションのすぐ南に、また新築マンション。

建築中のマンションをすでに契約している人にとっては、厳しいです。

いきなり、日が当たらなくなる、ということになる家もあるんじゃないでしょうか。

しかし、不動産を購入する時は、「こういうこともある」というリスクは、考えておかないといけないでしょうね。

さて、オリンピックで金メダルを取った伊調馨選手が、試合直後のインタビューで、「やりたいことを出せなかった。悔しい」といったことを話しているシーンを、ニュースで見ました。

一番になっても、それでもまだ「悔しい」と言えるのは、今までそれだけ高いレベルで準備してこられた証なんだろうと感じます。



2012. 08. 10

こだわりは伝わってこそ

お盆前の最終営業日です。

明日は午前中に新規相談が入っていますが、16日（木）まで夏季休暇をいただきます。次の営業は、17日（金）からです。

昨日は電話もほとんど鳴らず、静かだったので、今日の昼は事務所を閉めて、ランチに行く計画立ててました。

午前中はバタバタしていましたが、1時間だけ事務所を閉め、4人で近所のフレンチに。

オーナーさんによる食材への強い「こだわり」を聞きながら味わえたので、よりおいしさを感じましたが、そのこだわりもお客さんに伝わってこそなんだろうなぁ…と。

事業者の一人として、「こだわり」の伝え方を考えさせられた時間でした。

2012. 08. 11

「半分の法則」

「人生に・経営に成功する 半分の法則」（市川善彦著）

「目標の半分が実現すれば満点だと思って生きていこう！」（本書の表現のまま）と言われると、ゆるい話が書かれた本のように思いますが、そうではなさそう。

「本業に関連することで、知らないことがあるのは怠慢」
「知ろうとしないことが恥」（いずれも本書の表現のまま）



といった記述もあります。

耳が痛いことも含め、いろんなことが書いてあって、うまくまとめることができませんが、私の中では、

- ・やり過ぎたり、見栄を優先したりすると、道を誤る
- ・謙虚に生きつつ、経験に裏付けられた実力のある人を目指そう
- ・自分を追い詰めない、他人も追い詰めない

そんなことを伝えてくれた本でした。

2012. 08. 12

「星野リゾートの教科書」

「星野リゾートの教科書」（中沢康彦著）

星野リゾートを経営する星野佳路社長が、経営学の教科書を元に経営を考え、実践されているという話。

経営に行き詰った旅館、スキー

リゾート、「星のや」等、各施設の別に、どの本を参考に、何を考えて運営されているのかが具体的に書かれていて、より伝わりやすかったです。

素人が経営の勉強もせず、自分の感覚でやっているのと、次元が違うんだ…という当たり前のことに気付きます。

それと、社会が変わっても、本当に大事な部分は昔から変わらないのだ、ということも分かりました。



2012. 08. 13

イチロー選手の習慣術から

『一流の習慣術 イチローとマー君が実践する「自分力」の育て方』（奥村幸治著）

著者は、オリックス時代にイチロー選手のバッティングピッチャーをつとめ、田中将大投手とは、ボーイズリーグで選手と教え子の関係。



そんな関係にあるからこそ書けるイチロー選手のルーティンの話。直接交わされた会話なんかも書かれていて、伝わりやすく、説得力がありました。

私の中にも、「習慣が人を作る」という考え方がありますが、それで間違いがなさそう、という思いを強くしました。

印象に残ったのは、監督をされている中学硬式野球チームの話。有名になったことで、見学者も多いそうですが、「そんなに開けっぴろげにすべて見せない方がいいのでは」という忠告に対し、隠すつもりはないとのこと。

「大切なものは目に見えないから」、という理由ですが、表だけ真似しようとしても同じようにはできない、という感覚も、私は好きです。

2012. 08. 14

毎日同じではいけない

『カリスマ新幹線アテンダントの感動を呼ぶ接客術 あなたから買えてよかった!』（斎藤泉著）



片道3時間半の車内販売で、売り上げ平均7～8万円のところ、26万5000円を記録し、

注目を集めるようになった、という著者。

「どうすれば売れるか」というテクニックの話より、お客さんのちょっとした仕草から気持ちを感じ取ることであったり、事前の準備のことであったり、車内販売に限らず、接客業全般に共通することが書かれていました。

・毎日同じサービスではいけない

・無理に売らないことで信用を得られることもある

・相手の立場に立つ。相手の目線で物事を見る

・幅のある対応は、けっして机上の学びだけでは得られない

など、共感できる話、ウチの事務所にも通じるなと感じる話がたくさんありました。

結果は同じであっても、私も「あなたに頼んでよかった」と言ってもらえるような仕事を、と思います。

2012. 08. 15

わたらせ温泉

昨日から、和歌山のわたらせ温泉に来ています。

出発前は、堺も大雨。

道中も滝のような雨に降られましたが、その一方で予想していたお盆の渋滞がなく、昼食時間も含めて4時間で着きました。



南紀田辺ICからの国道311号線は、山道特有の危なさを感じる場所もなく、走りやすいです。

わたらせ温泉には、「西日本最大」の露天風呂も含め、たくさん風呂があります。風呂好きには最高です。

部屋の中にはコーナンの袋。

最初は意味が分かりませんでした。そういえばコーナンに行くと、「わたらせ温泉」の看板が出ているのを思い出しました。グループ会社のようなようです。

チェックイン時に、「雨が上がっていたら洗車しておきます」サービスがあるのを知らされました。

残念ながら、今朝もどしゃぶりの雨ですが、「他にはないサービス」を見つけました。

2012. 08. 16

川湯温泉

昨日は、渡瀬温泉をチェックアウト。

十津川村の「ホテル昴」までドライブした後、川湯温泉（渡瀬温泉のすぐ近く）まで戻りました。

上の写真は、朝まで大雨が続い

ていた昨日の大塔川。下は今日の写真。少しだけ角度が違いますが、同じ川だと思えません。

天気が良くなった今日は、「こんな眺めは今までにない」と、ずーっと外を眺めていましたが、同時に自然の怖さも感じました。

今日は熊野本宮大社に行って、「道の駅」を3か所、ぶらぶら寄り道しながら大阪に戻りました。

有田ICまでは山道を使って、4時間弱でした。

川湯温泉は、私の中では「遠くても行く価値あり」の場所になりました。

今回は「川湯」を楽しめなかったのが、また次の機会を考えるとにします。



2012. 08. 17

気を抜くと楽なほうに

夏休みも終わり、今日から仕事を再開。

いつもは、休みでも事務所に来ない日は少ないのですが、5日間、完全に仕事から離れてみました。

夢の中、自分の事務所の風景とは違いましたが、「警備をかけてくれているのか」と気にしているシーンが出てきました。

気になるのは事務所のセキュリティと、連絡をもらっていることが分かっていながら返事をできていなかったこと。

仕事が始まったら始まったらで、仕事の中身で悩むこと、迷うことは尽きませんが、

少し休んでみると、気を抜くと楽な方向に進んでいきそうになることも分かるので、それを許してもらえない環境に身を置けるように、と思います。

2012. 08. 18

魅力があれば不便でも？

今朝の日経新聞に、「紀伊半島 客足戻れ」「台風水害1年、観光復興へ奮闘」「十津川 道路復旧後も苦戦続く」の記事。

先日旅行に行った地域は、まさに去年の台風で大きな被害を受けた場所。

川湯温泉で泊まった「富士屋」は、床上浸水だったそう。

まだ土砂崩れ現場の復旧ができていなくて、片側相互通行になっている場所を何か所か通りました。

「日帰り温泉の利用者が例年の半分程度」と記事に出ている「ホテル昴」にも足を伸ばしました。

和歌山から十津川温泉に通じる道の中で、立派なバイパスが作られていたものの、迂回路になっていて一部通れず。それを除いても、走りやすい道ではなかったです。

自然に囲まれ何も無いことも魅力なのでしょうけど、一人の温泉ファンとしては、「不便でも行きたい」と思えるような施設作りを望みたいです。

2012. 08. 19

手作り餃子

今日は、手作り餃子を作りました。

白菜とニラをきざむのに手間取るので、フードプロセッサーを購入。3,500円で今後の手間も省いてもらえるのであれば、OKでしょう。



合計150個。

食べなかった分は、生のまま冷凍庫に入れて、おかずがない時に使います。

いつもと違う会社の皮を使うと食感が違ったり、皮が余りそうだったので、「具を少なく」と言いつつ包んでいると、へちゃげた感じになったり。

今回は少し失敗。

来客時に提供できるくらいのレベルになるまで、改良していきます。

2012. 08. 20

いつでも基本書に戻れる

汚れていた車がきれいになっています。

一昨日の豪雨の影響？だと思えない、ウソのような話。

事務所の警備も誤作動で鳴ったようで、警備会社さんが見回りに来られた記録も残っていました。

さて、今日から再び仕事に。

待っていた書類が揃ったので、個人再生の申し立てを1件。

登記のこの問題、そういえば司法書士の試験勉強の時にあったな…と受験の時のテキストも見ていました。

司法書士として仕事をするための、一番の土台となる部分。

不動産登記の問題については、受験時の基本書から答えが見付かることは、今でも時々あります。

2012. 08. 21

自分の都合と相手の迷惑

F A Xが鳴ったと思ったら、DM。

他の司法書士の分まで…。

営業の電話でも仕事の手を止められますが、広告を受け取る側がコスト（紙代とカウンター料金）を負担しないとイケないなんて、迷惑なことです。

不動産業者の人が書いた本に、司法書士から物件を紹介してもらう手段としてF A X DMのことも書かれていましたが、間違っているんじゃないかと思いました。

一緒に仕事をしていくならなおさら、相手の側に立って物事考えられるかどうかは、大きなことのような気がします。

と書いている私も、自分の都合でしか見れていない可能性もありますが。

2012. 08. 22

細かいことは当然できる？

今朝は、新聞でもニュースでも、阪神の新井選手の送りバント失敗の件を取り上げられてました。先日は、巨人の村田選手も失敗していました。

大きな仕事ができる人は、細かい仕事も当然できてしかるべし、なのだと思います。

ただ、「いざ」という時だからといって、普段やってないことをやってもらおうとしても、難しいものなんでしょう。そういうものなんだ、と思います。

私の事務所でも、みんな得意な部分が違います。

だからといって、「得意なことだけでできればいい」というわけではないので、「できること」の幅を広げてもらわないといけません。

効率を考えると、ついつい「その時にできること」に偏りがちになります。

2012. 08. 23

事務用品の注文先を変更？

久しぶりの法廷です。

今日は順番待ちの人で、傍聴席はいっぱい。

立ったまま待っている人がたくさんでした。

事務所に来られる営業は、基本的に「お断り」ですが、「事務用品を他社より安くする」と言われるので、見積もりを頼んでみました。

顔の見える付き合いはないですし、どこに頼んでも同じ品物が届くなら、安いに越したことはないので…。

1つ1つの商品代もそうですが、「いくら頼まないと送料がかかる」という金額のラインも大きい。

先日の「カンブリア宮殿」でアスクルが取り上げられているのを見て、すぐに届けてもらえるのがどれだけありがたいことが、実感できましたが、

「送料をかからなくするために」と、少しずつ「急ぎ」でない注文が蓄積されている可能性があります。

2012. 08. 24

登記相談とその周辺の話

今日は、新規相談2件。

設立の打ち合わせ1件。

登記のご相談では、少なくとも、法務局の登記相談では聞けないこともお伝えできたかな、と思っています。「すっきりしました」と言っていただけで、よかったです。

設立の件、お話しの途中で、資本金の払い込みに走って下さいました。

私の中でも段取りがはっきりしていなくて、事務所内でも迷惑を掛けてしまいました。

「〇〇銀行はどこにある？」という話になった時、よく利用されている地銀も含め、主な金融機関であれば、少し移動した距離にATMがあります。そんな部分でも、立地に助けられています。

2012. 08. 25

勢いで大きくすることより…

日経新聞夕刊に連載されていた、一休社長の森正文さんの話。
昨日の記事で、こんなくだりがありました。

「いいものをつくるには時間が必要です。急いで拡大するより、
継続して地道にやっていけば、次のビジネスは利用者が教えてく
れる。このことをビジネス人生で強く感じました」

(以上引用です)

一時の勢いで拡大するのは、ある意味やりやすいことです。
借金の力も借りれば、もっと大きくできるかもしれません。
でも、ひとつの事業がずっといい状態で続くことはないんだ、と
いうことは、自分の経験として、また、いろんなことを見聞きす
る中で分かってきました。

そんな中、「次のビジネスは利用者が教えてくれる」というのは、
理想だよなぁと感じました。

2012. 08. 26

読売新聞に写真が出ました

マイベストプロ大阪の関係で、
読売新聞に顔写真が出ていまし
た。順番に出されているよう
で、出ることは知らなかったの
ですが。

マイベストプロ大阪に掲載して
もらってることの、直接のメ
リットは分かりませんが、外部のサイトにコラムを書ける場を与



えてもらっている、という意味では、自分に対するプレッシャーになっています。

ブログみたいには書いていないので、甘いなあと思ってますが。

さて、今日は居住しているマンションの管理組合の総会。

節電の時代だから、昼間は共用部分の電気につかないように設定できないのか？という意見が出ましたが、電気代のほとんどは、エレベーターと水道のポンプに要するものなんだそう。

2012. 08. 27

大企業が儲からなくなると

ヤフーニュースに、「シャープ失速 取引企業が悲鳴」という記事が出ていました。

今日もお客様との打ち合わせの中で、

「大企業がお金を使わなく（使えなく？）なると、いろんな商売で支障が出る」

という話が出ていましたが、「悲鳴」が出るのは、直接の取引先には限られない、のだろうと思います。

「大企業だけ儲けてけしからん」「大企業に減税するのはけしからん」といったことを、駅前で言っている人を見る度に思うのですが、

知らず知らずのうちに、回りまわってその恩恵を受けていることもあるわけで、

じゃあ、「大企業が儲からなくなればどうなるのか」という現実を、こういう機会にちゃんと見ておかないといけないんじゃないかな、と思います。

2012. 08. 28

引き出しが足りることはない

今日のご相談では、法律のこと以外のことも含めて、お話ししていました。

ベースになるのは、自分が経験したこと、仕事上で見てきたこと、本で読んだこと、など。

「いざ」という時に使える引き出しは、いくら用意しておいても、「これで十分」というレベルに届くことはないんだ、と。そう考えて、日々過ごしておくほうがいいでしょう。

さて、明日は京都に出張です。

事務所にいる時間が長いと、どうしてもパソコンを見てしまいます。

最近目はがしんどいので、パソコンを見れない時間を作れる意味では、いい休息になります。

2012. 08. 29

自分から合わせるほうが早い

今日の不動産売買は現金決済なのに、抹消の債権者への振り込みの控えが出てくるまで、40分くらい待たされました。

帰り際、買主さんが金融機関の担当者に、「1時間以上も使わせてくれてありがとう」と言って帰られたのが面白かったですが、それが嫌味だと受け止められているかどうか…。

相手方の司法書士さんとは、登記申請書の記載のことで、「書き方が違う」という話に。

こういう場面で、私にとって大きいのは、2か所で勤めさせてもらった経験。

言われる方法に合わせればいいことで、私の事務所から「そうではなくて」「こうして下さい」と言うことは少ないです。

2012. 08. 30

小遣い帳を付けてみる

夏は出掛けたくなる誘惑も多くて、給料日前になると、2か月続けて財布の中はゼロに近くなっています。

「いつの間になくなったのか？」と思うこともあるので、小遣い帳を付けてみることに。

エクセルでやろうとして何度か挫折しているので、シンプルに手書きでいくことにしました。

私がそんな感じなので、債務整理の依頼者の方に「家計簿を！」と強く言うことはありませんが、少なくとも、予め決めた予算の範囲内に支出が収まっているということと、

できるだけ口座振替を使って、使途不明金を減らすための工夫は必要、と思っています。

ちなみに、事務所の帳面は、1円の誤差も出ないよう日々きっちりしてくれていますし、家計簿は遅れ気味ながら、毎月集計を出してくれています。

2012. 08. 31

本に囲まれ「次」の準備

夕方の雷雨の後、涼しい風が吹いています。

今日で8月も終わり。

せみの鳴き声も止まり、気候も秋に向っていることを感じます。

読売新聞には、「耐えた！あつい夏」と書かれていましたが、暑い暑いと言っていた割には、朝や夜はそうでもなかった気がします。

寝室は、寝る時に1時間半、エアコンを入れるだけで、扇風機なしで通しました。

仕事は忙しいのか、忙しくないのか。

そんな時だから、毎日たくさんの本に囲まれ、「次」のための準備を進めています。

2012. 09. 01

お客さんの好みに合わせる

最近見つけたケーキ屋さん。

店頭には完成したケーキが置かれてなくて、注文した後、フルーツ等の好みを聞いて、目の前で作ってくれます。

同じ商品を注文しても、その時によって中身が違います。多分。

今日は、セット「6品1, 500円」のチラシを発見したので、行ってきました。単品で注文すると、350円前後のものが混ざっているので、お得です。

売れ残りの商品が残らない、作る手間がかかる…経営する側から見たメリットデメリットは思い浮かびますが、お客さんの「好みに合わせる」という姿勢に共感します。



2012. 09. 02

事務所新聞を出す意味

「売れる&儲かる！ニュースレター販促術」を読みました。

「事務所新聞を作りたい」と思いながら、思っているだけだった私。読んだ後は、「やってみよう」という思いが、もっと強くなりました。



司法書士さんでも弁護士さんでも、やってる事務所さんは、昔からされていることなので（この本が出たのも、平成18年です）、分かっている方からすれば、何をいまさら、という感じでしょうけど。

本の中では、新規顧客の獲得には力を入れても、顧客が離れることには手を打っていない店が多い現実。ニュースレターによる売上確保が、小手先のテクニックの問題にとどまらないこと。売り込みのダイレクトメールになってはいけないこと、など、ニュースレターを出す趣旨も含めて、共感できる話がたくさんありました。

いろんな業種で使える方法だと思います。

2012. 09. 03

いろんな内容のお仕事

9月最初の営業日が大安。

ということで、期日指定の会社設立登記からスタートです。

午後からは、管財事件の債権者集会に同行。

自由財産拡張申し立てのために移行させた案件ですが、次が3回目の期日となります。

その後、法務局でお客様と待ち合わせし、書類をお預かりしてそのまま設定登記の申請。

事務所に戻る道の快速電車。

駅を通過しようとする度に赤信号で止まることに、嫌な予感でしたが、大雨による信号機故障とのこと。ちょうど三国ヶ丘駅に着いた時に運転中断となり、私は救われました。

夕方には、個人再生の打ち合わせも1件。

今週は、いろんな内容のお仕事、ご相談が続きます。

2012. 09. 04

問い合わせの波

今日は、新規相談3件、打ち合わせ1件。

一時、ホームページからの問い合わせもピタッと止まってしまいました。また、戻ってくれたようです。

問い合わせの波には、何らかの原因があるのかもしれませんが、偶然なのかもしれません。

でもきっと、自分でも気付いていない「何か」があるのだろう、とは思っています。

時間が合わず、来週まで待っていただくことになった方もいらっしゃると思いますが、「それなら他所で」と言われないうちに、ありがたいことと受け止めないといけません。

2012. 09. 05

相談料に対する見方

今日は、新規相談2件、打ち合わせ1件。

新規相談の方については、電話での予約対応をしたスタッフから、「相談料のことを気にされていた」と聞いていました。

「相談料が要るんですか!」「お金がいるならやめときます」と言われることもあるので、そういう意味なのかと受け取っていましたが、実際にはその逆。

「無料で聞くなんて、話がおかしい」と、私の事務所が「無料」と言ったら、断わるつもりだった、とのこと。

ああ、そういう見方もあるんだなあ・・・と。

客観的に考えれば、無料だから「いい」「だめ」ということはなくて、専門家としてどれだけのお話を提供できるか。それと、無料なら無料で、その理由を問われた時に、すっと答えが出てくるかどうか、でしょうかね。

ちなみに、債務整理関係については、正式な受任に至らない限り、無料でご相談に対応しています。

2012. 09. 06

机の前で見えるのは1 / 3

今日は、当日予約の新規相談1件。

夜は、司法書士会の研修。

「成年後見における本人死亡後の事務手続－法定後見の場合－」

死後事務委任契約のことだと思い込んで行きましたが、いずれにしても聞いておきたい話だったので、よかったです。

会場の中で、死後事務を経験している人が1 / 4くらい。

後見事務未経験の人が1／2くらい、とのこと。

死後事務の分野は、特に悩ましいことばかりで、経験してみないと分からないことがたくさん出てくるはず。

机の前で勉強している段階では、多分3分の1くらいしか見えてないと思いますが、それでも、準備できる範囲で準備を、と思います。

2012. 09. 07

写真で伝わるイメージ

作ってもらったスーツを受け取った後、せっかくだからと、写真も撮ってもらいました。

「もっと笑って…口角を上げて、目をもっと大きく…」と言われて、
「そんなの無理～」と思いましたが、撮ってもらった写真を見ると、それが自然な表情だったりします。

写真といえば、サイトに顔写真を載せることについて、今日事務所まで話をしていました。

似顔絵を載せた時も、自分たちにとっては「思い切った」ことだった気がしますが、顔写真を入れるようになるまで、さらに時間がかかりました。

文章でどれだけ「こんな事務所です」と説明するより、写真を見てもらうほうが早い。写真で伝わるイメージは、それくらい大きいものだと思います。

2012. 09. 08

飾って見せようとするより

土曜日ですが、税理士さんとお客様宅を訪問。

何を優先するかで選択肢が違ってくるので、「これがベスト」という答えは出てこなさそうです。

その後、一緒に昼食を。

時間を気にしないでいい気持ちは、土曜日ならではです。

ホームページの原稿は、徐々に仕上がってきました。

事務所の内外から意見をもらいながら進めていますが、「こうすればいいのでは？」という感覚は、人によって微妙に違うので、余計に難しい。

そんな中、ひとつはっきり見えたのは、

昨日の話とかぶりますが、「相談しやすさ」というのは、飾って見せることも必要なかもしれませんが、本当に「相談しやすい」事務所なのであればむしろ、「ありのまま」を伝えようとすることを優先すればいいのではないかな、と思います。

2012. 09. 09

宅急便が産まれた経緯から

「小倉昌男 経営学」（小倉昌男 著）

ヤマト運輸の経営者であった著者が、どうやって「クロネコヤマトの宅急便」を作り出したか。その経緯を通じて、経営者に必要な考え方や、組織のあり方を考えさせてもらえる本です。

今でこそ、当たり前のように存在している「宅急便」ですが、社内の反対、行政の抵抗も含めて、システムができるまでには、大変な困難があったことが分かりました。



元々あった「定型的、反復的」な輸送の仕事に対し、個人客相手の宅急便は「偶然的、非定型的」（「」内は本書の表現のまま）。だから「事業として成り立たない」という声は当然だったのでしょうけど、

銀行や不動産業者さん、税理士さんからの紹介で、定型的な仕事をしているのが普通だった司法書士の世界にも、通じる部分がありそう。

平成14年の開業時から、「個人のお客さんを」と考えて仕事をしてきた私にとっては、もっと早くに読んでおくべき本でした。

2012. 09. 10

金融円滑化法の後

今日は、新規相談2件。

いろんな分野のお仕事が入ってきますが、

個人事業者の方からの債務整理の相談が、増えてきました。

「過払い」とは、全く違う世界です。

金融円滑化法の期限が切れると言われてますし、今度こそ、個人再生が増えてくるかもしれません。

個人再生の書類作成は、手間がかかりますが、「きっちり」仕事をするのが得意な、司法書士に向けた仕事のひとつではないか、と思ってやっています。

さて、実質従業員でも、形式上外注扱いになっている、という仕事形態は、よく見聞きます。

働く側としても、そっちのほうが都合がいいという場合もあるかもしれませんが、法律で締め付けを厳しくすれば、違う部分でしわ寄せがくることも、気付いておかないといけません。

2012. 09. 11

滞納の税金を清算

税金滞納で、不動産に差し押さえが入っている案件。

過払い金が出たので、「一括で清算したい」旨、役所に申し出たところ、「迷惑なのかな…？」という感じの対応。しかし、話が通じた後は、「ありがとうございます」の繰り返しでした。

そういう例は、少ないのでしょうか。

税金は、支払いが苦しくなると、つつい後回しになるものかもしれませんが、その時は「黄信号」を発している段階。

生活を見直すことで、何らかの修正をすれば間に合う段階かもしれませんが、逆に「後回し」が積み重なると、マイナスの循環に陥ってしまう可能性が高くなります。

2012. 09. 12

依頼者の利益と望み

今日は、新規相談2件。打ち合わせ1件。継続的な相談1件。

契約書作成に関しては、「依頼者の方に有利な条項を」という面からお話ししていましたが、直接の依頼者自身が、そこまでのことを求められていないこともありえます。

相手方の立場や、感情もあるでしょう。

どんなお仕事でもそうですが、第三者から見る「依頼者の利益」と、「依頼者の望んでいること」が違う場合もあるということを、分かっておかないといけないと思います。

2012. 09. 13

コンビニのパスタを楽しむ

今まで見向きもしてなかったのに、昼食で、時々楽しんでいるコンビニのパスタ。

写真は、ローソンの「和パスタ」で、鶏肉が入った和風だし。

なかなかいい味していました。

商品開発の現場では、ものすご

い種類のアイデアが出されていて、その中から店頭に並ぶのはごくわずか。また、一定のサイクルでどんどん商品が入れ替えられていく、

という話を、複数の番組で見ました。

実際、買いに行ってもらう度に、違う味のパスタが届きます。

だから、また食べたくなります。

司法書士の仕事で考えると、「明日からAの業務はやめて、Bの業務に取り換える」というわけにはいきませんが、見えない部分では、常に修正の余地はあると思ってます。



2012. 09. 14

「待ち」書類のスペース

今日は相当な大雨だった様子。

というのも、地下鉄で出掛けて、駅直結の会社さんを訪問し、また戻ってくる間の出来事。駅から傘をささずにたどり着けるのは、本当にありがたい。

自宅でも家でも、本当の理想は、そんな環境で過ごすことです。

さて、忙しいのか忙しくないのか、分からないうちに、また1週間が終わりました。

「進行予定」「待ち」の書類を置いてあるスペースには、どんどんとファイルが積み重なっていきます。

ひとつひとつの仕事のスパンが長くなるのは、その内容によっては仕方がない面もありますが、仕事を溜めてもいいことはありませんので、「できることはできる時に」を心掛けたいです。

2012. 09. 15

「試験勉強という名の知的冒険」

「試験勉強という名の知的冒険」

(富田一彦著)

著者は、代々木ゼミナールの講師。

C F P 試験の受験生でもある私は、タイトルに惹かれて読みました。



私自身、今も昔も大学受験に対してはいい思いを持っておらず、「いい大学に行って、いい会社に入って…」という周囲の声に、反発していたものです。

でも、本書にあった下記のくだりは、今になってその意味が分かるようになりました。

『誰も正解を知らない未知の世界へ歩みを進める前に、「誰かが作った箱庭」の中で「必ずあるはずの正解」を合理的に探し出す訓練は、本来の勉強をより賢明に進めていく上で、きわめて有効な準備段階だと私は思う。受験勉強は（正しい方針で臨めば、という前提つきであるが）、人生の有益な助走になりうるのだ』(以上引用です)。

司法書士業務の中でも、「正解がない」ことはあります。でも、前提となる基本的な知識や、決まっているはずのルールを知らないと、応用して考える段階にも進めないと思うんですね。「知的冒険」という感覚は、今の私の中にもありますし、この本を読んで、「受験勉強は、社会で役に立つものだったんだ」ということに、改めて気付かされました。

2012. 09. 16

「だれでも…」の言葉は罪

「だれでも司法書士になれる本」
(大橋恵子著)

うちの奥さんの本棚に、こんな本がありました。

一回読んであきらめたようですが、「だれでも…」の言葉は罪です。



これから勉強を始める人向けで、勉強法の他、「司法書士の日」なんかも載っているの、やる気になれそう。私も、受験勉強を始めた頃は、「合格体験談」の類はたくさん読んだものでした。平成10年に出された本に書かれている司法書士の「三大業務」は、登記、訴務、供託。「破産申立」という単語は見つけましたが、「債務整理」「過払い」「成年後見」といった単語はなくて、時代の変化を感じます。

「司法書士は永遠に不滅」「仕事が極端に減るといことはない」という記述もありましたが、それも、ふた昔前だから言えることでしょうか。

しかし、著者の事務所は大きくなっておられるので、「司法書士は安泰」という感覚で仕事をされてきたわけではないことは、分かります。

2012. 09. 17

法律の範囲内に限らず

この三連休は、事務所にこもって専門書の読み込み。

成年後見に関する原稿作りに時間を費やしました。

「これじゃ足りない」と、社会福祉士さん用の専門書も注文。

法律の方面から見ているだけで足りないのは、債務整理の分野と共通するものがあります。

原稿作りには、他の司法書士スタッフの手も借りています。

「情報が足りない」と言ったかと思うと、「内容が細かすぎる」と言う、私の感覚に合わすのは難しいことだと思いますが、

原稿に手を加えさせてもらう時は、「なんで変えるのか」という理由も伝えるようにしています。

そうすることで、私の頭の中も整理できますし、手直しされた方も、多少は納得できる部分を作ってもらえるのではないかなあ、と思います。

2012. 09. 18

数字に向き合ってもらおう機会

今日は、久しぶりに富田林簡裁へ。

早く着き過ぎたので、そのうち人が増えてくるのかと思っていたら、帰るまでひと気がないままでした。

事務所に戻って、新規相談と打ち合わせが1件ずつ。

ところで、自己破産や個人再生の陳述書を作るため、過去の事情をお聞きする際には、たて軸に年月、よこ軸に業者名を入れて、借入返済額を入力したエクセルシートをご用意しています。

自動計算で、借入れが多い月は合計がプラスになりますし、返済が多ければマイナスになります。

「返済のために借りました」と言われても、実は借入金でプラスの生活をされていたことが分かることもありますし、逆に、マイナスがずっと続いていると、頑張って返済されていたんだな…ということが分かります。

家計表もそうですが、数字に向き合っていただく機会は貴重なのではないかと、思います。

2012. 09. 19

賃貸住宅の経営も大変

今日は、不動産売買の決済が1件。

売主側、買主側、設定の金融機関側と、3人の司法書士がついた例は、私の事務所を開業してからでは、初めてかもしれません。引き継ぎの話をお聞きしていると、賃貸物件の管理の方法（掃除やエレベーター点検の頻度なども含めて）は、それぞれの方法があるんだなあ…ということと、その中でも、共通の認識事項があるんだなあ…ということが分かります。

私自身の頭にあることとしては、「賃貸収入で儲けよう」と、素人が手を出して簡単にいく事業ではない、ということと（それはどんな事業でも同じかもしれませんが）、

「住んでいる家の住宅ローンが払えなくなったので、他人に貸して、その家賃で返そう」という選択も危険である（住宅ローンを組んでいる金融機関に対して契約違反になる、ということは別としても）、ということがあります。

2012. 09. 20

職人としての経験

私の机から、隣のビルを見た角度の写真。

外壁塗装をされるのか、ビルの外に足場を組まれていました。普通の人であれば、足がすくんで立てないであろう場所で、手際のいい作業。



「職人技・・・！」と思って見ていました。

職人さんの世界では、よく「ここまでできるようになるまで、〇年かかる」という話を聞きます。

今まではどちらかという、「そんなことないだろ」という目で見ていましたが、すぐできることもあれば、時間を積み重ねないとできないこともあって、

特に「感覚」という部分では、経験を積まないと分からない面が多いのではないかと考えるようになってきました。

「感覚」で仕事をしてはいけないこともありますが、逆に、「感覚」が磨かれていないと、仕事ができない場面もあります。

2012. 09. 21

同じ方向を向けること

今日は、打ち合わせ2件、新規相談1件。

問い合わせや来客も多くて、ありがたい状態にありますが、来客以外でもどこかバタバタ。

つまらない話ですが、昼食の出前の注文が遅れ、食べたい物を食べられなかったことも、仕事の判断ミスにつながる出来事です。

さて、セリーグは、巨人の優勝で終わりました。

選手をコロコロと入れ替え、選手間で不満が出ないのかなあ…という目で原監督の野球を見ていましたが、場内の監督インタビューで自分の名前を出してもらえたなら、そういう感情があっても、吹っ飛ぶものかもしれません。

トップが自分の姿勢をはっきりとさせて、気持ちの面のケアもされているからこそ、強い組織ができるのかな…ということを感じます。

2012. 09. 22

昼寝と仕事の効率の関係

日経新聞の夕刊にある「こころの健康学」のコーナー。

昨日の記事は、「昼寝の効用」「夜の睡眠の質も向上」です。

「眠気が強まる午後2時の前に短時間の睡眠をとると、脳がリフレッシュされて意欲や集中力が高まる。

それだけでなく、週に3回以上の短時間の昼寝をすると、夜の睡眠の質が良くなる。

睡眠と覚醒のリズムがきちんとなって、決まった時間に眠れるようになるだけでなく、熟睡感が増し、朝も時間通りに起きられるようになる。

それがアルツハイマー病や心臓病、脳血管障害、うつ病の予防につながってくるそうだ」（以上引用です）

「週3回以上」という具体的な回数は知りませんでしたが、私も自分の席で、昼休みに少しの時間でも目を閉じるようにしています。

すぐにウトウトできる時は「調子がいい」と感じますし、用事が立て込んで昼休みどころでなかったり、疲れ過ぎている時は、眠りたくても眠れません。

もっとも、寝たくても、かかってくる電話の音も含めて眠らせてもらえない・・・ということもありますが、

わずかな時間、仕事の手を止めて、その分仕事の効率が上がることを医学的に説明できるのであれば、もっと昼寝のメリットが知られてもいいのではないかな・・・と思います。

2012. 09. 23

5年後の記念日に

昨年に続き、「合歓の郷」に行ってきました。

「結婚5周年の記念に」と、元々は他の場所を予約していましたが、新聞の広告に「開業45周年記念」「旅サラダ放送記念」とお得なプランが出ていたので乗り換え。



その前に、合歓の郷から「シーズンレター」が郵送で届いていて、その存在が気になっていた、という前提もあります。

広い場内。

コテージタイプの部屋を選んだので、温泉に行くのも、食事に行くのも車（もしくはランドカーをレンタル）での移動です。

今日はあいにくの雨で、食事に出掛けるだけでビショビショになりましたが、それも普段にはない思い出ということで。記憶に残る旅となりました。

2012. 09. 24

曖昧な表現に頼らない

事務所の中で、「さまざま」「さまざま」と繰り返されていた文章を見つけたのでチェック。

じゃあ、その「さまざま」が何を指しているか？と聞かれて、答えられるかどうか。

今朝、テレビでは「しっかり…」「しっかり…」と繰り返す政治家の映像が流れていて、スタジオでは「何のことでしょうね」と話されていました。

「しっかりやる」とか、「きっちりやる」と言うと、間違いがないようにやってくれそうな気もしますが、それが曖昧な表現で逃げようとする意図ならば、聞いている人には伝わってしまいます。「あえて言わない」という場面はあるのかもしれませんが、事実であれ、自分が考えていることであれ、できるだけ具体的な言葉で伝えられるよう、心掛けたいものです。

2012. 09. 25

売れた時に転換は難しい

先週の「カンブリア宮殿」は、カニカマ製造機メーカーの株式会社ヤナギヤ。

「カニカマには興味ないしな…」と消そうかと思ったのですが、「強い中小企業の経営術」は素晴らしい話でした。

「カニカマ機械だけじゃない！」の話では、フグの皮をむく機械であったり、ネギトロを作る機械、海苔の乾燥機等の存在を紹介されましたが、

あれがダメでもこれでやれる、と、自社のことを「雑食性企業」だと言われてました。

「何でも食べられる」と。

その前提には、「食べる物が限られた動物が絶滅危惧種」になっている、という話があります。

いろんな商品を取り扱いながらも、専門性や独自性を追求されている姿勢には、「うちの事務所もこうありたい」と感じました。

それと、テレビが売れなくて行き詰った企業に対して、「売れた時になぜ違うものに転換できないんだろうか」と言われていたのは、印象的でした。

2012. 09. 26

どこかで重なっている

今日は、個人再生の書類作成を1件受任。

この段階で必要書類を整えていただいていると、後の段取りが本当に楽です。

あと、傾向として、事前にホームページから「債務整理相談シート」をダウンロードして、初回相談時に書き込んでお持ちして下さる方は、きっちりされた方が多いと感じています。

その後は、金融機関まで、抵当権設定書類をいただきに移動。

私の場合、お客様からご指名してもらうことで、初めてお受けできるお仕事です。

夕方には、相続や成年後見の相談、会社さん関係のお仕事も入っています。

全てが別々の業務のようで、どこかでつながっている可能性もあります。

2012. 09. 27

広い視野で仕事を

今日は、元々の来客の予定が2件だけだったのに、やたらとバタバタしていました。

落ち着いて仕事ができないと、余計に余裕がなくなり、ミスが増えてくる、という悪循環に陥ります。だから気を付けないと。

スタッフは、「よくそんなにやる事が頭に入ってますね・・・」と言ってくれますが、私の場合、事務所の中では全体が見える立場にいたので、逆に楽に仕事をしている面がありそうです。

一部しか見えていなかったり、一部分が見えていないだけで、今やることが見えなかったり、精一杯の仕事をしたつもりでも、「それでは足りない」となることもあるんですね。

だから、自分の担当外でも、誰がどんな話をしているか、周りを気にしながら仕事をしてね、と言うのですが、なかなか難しいことのようにです。

細かいミスを防ぐためにも、できるだけ広い視野で仕事を、です。

2012. 09. 28

周囲の意見は貴重

その時その時は手間がかかることなので、つつい省略してしまいがちな進捗メモ。

後になって、「あの時どうだったかな・・・」という時に大事になるものなので、マメに残していけないといけません。

会社関係のお仕事では、今まで進捗メモを残していませんでしたが、会社ごとに作っているファイルの内側に紙を貼り付けて、書き残していくことにしました。

さて、今日は、私が正しいだろうと思うこととスタッフの意見が違い、結果的にスタッフの考えのほうが正解になりました。

「どう思う？」というのは、仕事の中身のことであれ違うことであれ、自分が気になった時に聞くようにしています。

聞いたとしても、自分の考えを通すことが少なくなくて、「じゃあ聞くなよ」と思われることもあるでしょうけど、参考にさせてもらえるだけで、ありがたいもの。基本的に、周りの意見のほうが大人です。

2012. 09. 29

子どもとキャッチボール

今日は、友人宅でバーベキュー。

酔っ払い状態のまま、子どもたちとキャッチボールに、サッカーにブランコ。子どもたちは元気ですが、私は汗だくです。

キャッチボールは10年ぶり。

まだノーバウンドの球は捕れないようでしたが、子どもとキャッチボールができるようになったのは、父親にとってはうれしいことだったんでしょう。そんなことを感じました。

酔いがさめていないので、帰りのハンドルは奥様に…。

「危ない！」と何度声に出したか分かりませんが、今日の被害は、土手にタイヤをぶつけて、ホイールカバーをへこまただけで済みました。

今までに事故をしていないのは、ただ運がいいだけだと、思っておくほうがよいです。

2012. 09. 30

どこまでも修行は続く

『コーチング以前の上司の常識「教え方」の教科書』（古川裕倫著）

私自身の感覚では、「仕事に教えられること」なんて限られていて、

その分、他人の動きを見て、話

を聞いて、もしくは自分で本を手にとって調べて下さい、ということは、事務所の執務マニュアルにも書いています。

そもそもが、職安から初めて入ってくれたスタッフが優秀で、「人っていうのは、放っておいたら自然と仕事ができるようになるものなんだ」（それが普通）と私が理解してしまった、という前提があります。

しかし、この本では、「とことん基礎から教えないと、いつまで経っても仕事ができるようにならない」といったことが書かれていました。私の感覚は大間違い、ということです。

いずれにしても、組織で立場が上になったとしても、どこまでも修行は続く…ことは、間違いありません。



2012. 10. 01

いろんな立場の方の調整

時の感覚は、そのケースによって異なります。

例えば、「平成5年から消費者金融と取引されていた」という事実であれば、「かなり長い取引」「古くからの取引」という印象を受けますが、

「平成5年に登記をされた住所の証明が、役所で出ない」となると、「最近の登記」なのに、なぜ?という感じです。

さて、今日は、所有権保存と抵当権設定の申請です。

土地家屋調査士さんがお膳立てをしてくれ、「保存登記を」というケースであれば、司法書士として難しいお仕事ではありませんが、

表題登記が入るまでの過程を一から見させてもらい、いろんな立場の方の調整が必要なんだなあ…ということがよく分かりました。

2012. 10. 02

第三者の視点で考える

月が変わったばかりで、どんどんと新しいお仕事を受けていかないといけないのに、みんな手が一杯になっている様子。

私自身もたくさんキーボードを叩いていますが、依頼者の方の話に入り込んで考えている部分もあって、余計にしんどくなっている気がします。

相談者の目線に合わせて話を聞くことは、必要な姿勢だと思いますが、問題があることは「問題」である。無理なことは「無理」であると、第三者の視点から見ることでもできないと、

一緒になってどうしよう、何とかしよう…と悩むのは、いいことばかりだとは限りません。

かといって、引いて考え過ぎると、「冷たい」「他人事」となってしまっているので、そのバランスは難しいところです。

2012. 10. 03

働き方の規制は難しい

昨日の日経に、「産業界、派遣離れ進む」「若者ら置き去りの法改正」の記事がありました。

派遣規制の強化は、「期間の定めがない直接雇用こそが良い働き方だ、という正社員中心の発想が生み出した」ものであると、日経新聞は批判的なニュアンスで書いている様子。

人から聞いた話なんかも含めると、司法書士でも、いろんな働き方があることが分かります。

私自身は、勉強を始めた時から「自分の事務所を開業するんだ」と思ってやっていたが、独立を考えない人もいますし、自分の名前で仕事をするのを望まない人もいます。

また、それを望んだとしても、家庭の事情等でできない環境にある、ということもありえます。

「しんどいのは嫌…」みたいな感覚はどうかと思いますが、良い悪いの問題ではなく、誰かが「こうあるべき」と決められるものではなく、いろんな働き方があることは、間違いのないところです。

2012. 10. 04

結果的に役に立てる

今日はある方とお話していて、「自分が勉強することで、他人を幸せにできないといけない」ということを言われました。

なるほどなーと。

自分が得た知識なり経験を、どこに向けて使うか。

そういう意識を持っていれば、使い方を間違えずに済むのかもしれない。

でも、決して「他人のため」に勉強する、という意味ではないでしょうね。

表向きメリットがあるようでも、実はマイナスの方向に向けてしまっている、ということもあり得るので、「結果的に役に立てる」というのが、理想だと思います。

2012. 10. 05

最後の1科目に進みます

今日は、11月のCFP試験の願書提出期限。

9月で完了させる予定だったこともまだ終わってなくて、朝の段階では「今回はパス！」と思ってましたが、

願書を出さないで後悔するか、出して後悔するか…

どちらが後悔するかと考えると、答えが出ました。

6科目中5科目合格済みで、残りは金融資産運用設計のみ。

ここに書いておくのも、自分の行動に強制力を持たせるためで、途中で挫折するかもしれないことも含めて、受験勉強ネタにお付き合い下さい。

でも、まだDVDの講義（それも、6月の試験向けのもの…）も聞いてなくて、テキストもまっさらです。



2012. 10. 06

家計簿を第三者の目線で

8月末から付け始めた小遣い帳、今のところ続いています。まだ『習慣』にはなっておらず、その時その時に「書かないと…」と思いつつ、何日分かを思い出して書く、という繰り返しですが。

「気付かぬうちに財布の中が減っている…」としても、実際には、それだけのお金を使っていることが分かります。

自己破産の関係では、裁判所から、「家計簿を付けるように」と指示されている依頼者の方もおられます。

家計簿を集計して、家計表に転記してもらう、という作業。

お金の使い方について、他人からとやかく言われるのは私も苦痛ですが、自分の感覚では「普通」であっても、「第三者から見たらどうなのか」を意識してもらうのは、意味のあることだと思います。

2012. 10. 07

箕面温泉

今週は仕事に追われ、夫婦してもう限界…と、前日に予約。選択肢が少ない中、箕面温泉を選びました。

箕面温泉スパガーデンは、小さな頃から聞いていたCMのフレーズが耳に残っていますが、何とも言えないレトロな雰囲気。



お湯は良いのに、今の時代に受け入れられる施設じゃなくなってるんだらうなあ…と。

箕面観光ホテルは、古いことが気になって今まで敬遠してましたが、客室はリニューアルされていて、快適でした。また行けそうです。

昨夜はきれいな夜景に癒され、今日は、箕面大滝と勝尾寺を回り、緑の力で元気になって戻ってきました。



2012. 10. 08

料理を出す時の「名残手」

少し前の話になりますが、NHKの「仕事ハッケン伝」という番組で、タレントの押切もえさんが、「老舗旅館で仲居さんの修業する」という設定で働いていました。

そこで教えられていたのが、「名残手（なごりて）」。

料理をお客さんに出す際、ただ器を机の上に置くのではなくて、器を置いた時の手の形の残像を保つようにそっと引く。

そうすると、美味しそうに見えるし、大切なものを感じる事ができる、と言われていました。

先日、喫茶店で、店員さんに「ドン」という感じで水を置かれ、ふと思いだした話ですが、ただ行動として見えるか見えないかという問題ではなくて、

その背景にある接客に対する「意識」の違いで、いろんな部分に違いが生じてくるものだと思います。

2012. 10. 09

仕事の量と専門性

今日は事務所のメンバーが少なかったので、最低限しないといけないことで精一杯。

そんな中でも、経営のことを考えて、行動しないといけないこともあります。

4人から3人になる時より、3人が2人になる時に、一気に負担が増えるように感じます。

「1人で仕事するのが気楽」と、仕事仲間と話をすることもありますが、専門性を備えるために、ある程度の仕事量を経験しないといけない、とも思っているので、

いずれそういう時が来るとしても、今のところは「2人でいい」「1人でいい」という方向では、考えないようにしています。

2012. 10. 10

朝の時間を有効に

最近、朝、食卓を立つ時間が早くなりました。

睡眠時間を減らさず、自分の時間を増やすには、そこしかないかな、と。一時的なことではなく、長い間続けられる時間の使い方をしないといけないですが。

さて、昨日、テレビで金本選手の引退セレモニーを見ていたら、昔、大阪球場に見に行った「南海ホークス最後の試合」を思い出しました。

試合内容は覚えてませんが、中学の同級生と外野席で、試合後の場内一周を見ていました。混んでいたはずなのに、よく入場できたものです。

南海ホークスは経営者が変わったし、金本選手もいなくなります
が、阪神タイガースは来年もあるわけで、組織全体のことを考え
ると、せめてあと1年早く、若い選手が「お疲れ様」と言わなけ
ればならなかったような気がします。

2012. 10. 11

お客様のうっかりミスには

午前中、岸和田で用事を済ませて和泉市に。

和泉府中駅近くの地下道、長い間工事をしていましたが、やっと
出来上がったのですね。

事務所に電話を入れて、「今、和泉市役所だから」と断った上、
帰り道にある浜寺店に昼食の注文を頼んでもらったところ、なぜ
か岸和田店に注文を…（事務所とは反対方向です）。

浜寺店の方は、「こちらからキャンセルの電話を入れておきます
から」と言って下さり、助かりましたが、お客様のうっかりミス
には、寛大にならないといけないな、と感じました。

午後からは、堺東で裁判を済ませて、吹田まで打ち合わせに。

予定と予定の間の余裕がなくて、慌ただしい一日でした。

2012. 10. 12

相手には相手の優先順位が

救いの三連休の後なのに、またぐったり…。

私の前にスタッフがファイルを置く時、黙って置いてくれる人
と、何か言って置いてくれる人がいます。

本来なら、「お願いします」のひと言でもあるほうが丁寧なのでしょうけど、少なくとも今の事務所の状況からすると、何も言わずに置いてくれるほうがありがたい。

相手に対し、「今」何かをして欲しいとしても、相手は相手でやっていることがあるし、相手の中では優先順位が低いことかもしれない。

本人には言いましたが、そういうことは、考えておきたいところです。

私自身も気を付けないといけないですけどね。

2012. 10. 13

お客と事業者の間を行き来

外食の予定ではなかったのですが、たまたま通りかかったお店の雰囲気が良さそうだったので、わざわざ車をUターンさせて、戻りました。

「味」が大事なのは間違いですが、外からの見え方であったり、

内装であったり、店員さんの雰囲気、対応であったり、お客さんの満足には、いろんな要素が絡んでいることが分かります。

調理している姿が見えるのも、いいもんだな、ということも感じました。

私は事業者ですから、お客としてそういう感覚を味わって、自分の事務所に生かせる部分は生かして、また他のお店を見て、ということを繰り返しています。



同業者のサービスを受ける機会があれば、もっと勉強になるのでしょけれど、他業種であったとしても、参考になる部分はたくさんあります。

2012. 10. 14

字数制限があると難しい

自宅にはプリンターがありません。やってみたことはないけど、コンビニで印刷できるのでは？とUSBメモリにデータを入れて持参。



ワード形式では無理だったので、PDFに変換して、出直しました。

もっといろんなことができそうなので、仕事で「いざ」という時のために、使い方を把握しておかないと。

今週から書き始めたニュースレターの原稿。たった4ページのものですが、事務所のみんなにも協力してもらい、何とか形になってきました。

ある人に聞くと、こんな記事がいい。

ある人に聞くと、そんな記事には興味ない、と言われます。

読んでくれる人の立場が違うので当然のことなのですが、私的なことと、専門的なこととの、分量のバランスが分からないのと、普段「字数制限」がある中で書類を作らないので、「限られた文字数の中で文章を作るのは難しい」ということも分かりました。

やってみないと分からないことだらけ、です。

2012. 10. 15

「難しいことはやさしく」

昨日読んでいた『食いっぱぐれない「働き方」のテクニック』（金子哲雄著）に、こんなことが書かれていました。

『「難しいことはやさしく」「やさしいことは面白く」話すことは意識しなければ、なかなかできないものです。』

『難しい言葉を使わなければ説明できない人は、相手に伝わらない情報を発信しており、コミュニケーションを成立させられていない人ともいえます。』

金子さんの場合、「話し方」のことを言われていますが、文章でも同じことでしょうね…。

法律家だからと、難しいことを難しく書いていても、賢いわけではない、

ということになります。が、「判決」とか「免責」とか、依頼者の方にそういった単語を含む話をする場合に、どこまで他の言葉に置き換えようかと、悩む場面は結構あります。

2012. 10. 16

「カーシェアリング」使えず

他の市では郵送でいけるはずのところ、「窓口まで来て」「補助者ではダメ」と言われたので、バタバタと予定変更。

時間を使わないでいいところで使うと、いろんな部分でしわ寄せが来ます。

しかも、今日は、車を家に置いたままだった…。

車でないと不便なとこなので、「パーク24」のカーシェアリングを初めて使おうとすると、パスワードに反応しない…、電話もつながらない…とのことで予約できず。

一度お試しで使っておこう、と言っていたのに、忘れてました。いつも自分で書いていることですが、「いざ」という時のために、日頃から「いざ」を考えて行動しておかないといけない、というのは、こういうことですね。

2012. 10. 17

突然請求が始まる債権

何年も放置されていたはずの債権について、突然請求が再開されるようになった、というご相談が続いています。

「時効」によって、借主側が助かることもあれば、過払い金を回収できなくなることもあって、法律が有利に働くかどうかはケースバイケースですが、

貸金業者が時効になっている過払い金を返すことは、通常は考えられない中、個人の借主であれば、「うっかり返してしまう」「債務を認める書類にサインしてしまう」ということはあり得ます。家まで来られたら、普通に考えると怖いのです。

「法律を知っているかどうか」という場面には、できるだけ身を置きたくないものですが、知識の有無で大きな違いが生じてしまうかもしれない、場面のひとつです。

2012. 10. 18

タバコの問題はデリケート

分煙を求めた社員を解雇したことに対し、解雇を無効とする判決が出たことと、続いて、プロ野球チームが、「新人選手に禁煙を義務付ける」という報道もありました。

タバコの問題は、とてもデリケート。

お互いが嫌な思いをすることが分かっているの、私自身は募集の時に明記するようにはしていました。

ハローワークで認めてもらえた表現では、「事務所内禁煙です」。

今は、ビル自体が禁煙になっています。

勤務していた時、私の上司や先輩で吸う方がいなかったの、気にしたことはなかったですが、採用する側だけではなく、採用される側にとっても大きな問題、ということが分かります。

2012. 10. 19

ニュースレター創刊

事務所のニュースレターが出来上がりました。

名前は、思い付きの「あゆみ通信」。

今までの歩みも大切に。これからも、一步一步の積み重ねを意識して歩んでいきたい、という思いを込めています。

意味のよく分からない「4コマまんがー金運アップのおまじない…」や、専用の封筒も含めて、事務所内での手作りです。「ニュー



スレター作成代行」の存在は目に入りましたが、それをすると意味がない、ということで。

さて、今日は不動産決済の場で、「過去にやり過ぎたことの後始末を、時間が経って誰かがやっている」という話が出ていました。

その時は当たり前のことも、時間が経って社会の価値観が変われば、正反対の評価になることがあります。

そういう意味で、司法書士がやり過ぎたことも気になりますし、本当に社会のお役に立つ仕事をしているんだろうか、ということも意識しておく必要がありそうです。

2012. 10. 20

「年収1億円思考」

「一生かかっても知り得ない
年収1億円思考」(江上治著)
タイトルを見て、どんなにすごい
ことが書かれているのか…と
身構えていましたが、

仕事に対するマインドの強さ、
素直さ、日本の伝統的価値に忠
実であること、技術だけでなく接客マナーと店舗の清潔さを重要
視すること、自己投資の必要性、誠実さを忘れない、などなど、
いい意味で「当たり前」のことが書かれていて、共感できる内容
でした。

面白かったのは、「稼ぐ創業経営者は20代でパートナーを見つけ、そしてその女性の性格などは、経営者と逆のタイプを選んでいる」(本書の表現のまま)という記述。



一緒に突っ走ると、いい時はその分強い力が生まれますが、悪い方向に行った時の反動は恐いです。そういう面で、ウチもうまくバランスが取れている気がします。

経営者にも会社員の方でも、使える本です。

2012. 10. 21

「びわ湖温泉紅葉」閉館

先日の新聞に、大津市の老舗ホテル「びわこ温泉紅葉」が、来年の1月末で閉館する話が出ていました。

「老朽化が進み…」と記事にはありますが、「びわ湖温～泉～♪」というCMソングが耳に残っているのと、8年前に泊まりに行っ
て、とても良かった印象があるので残念。

チェックイン後、佃煮やフルーツが出てきたサプライズもありました。接客も良かった。

「2回目」には行ってなかったので、最後にもう一度、と思っています。

話は飛びますが、今朝のNHKで、観光客の減少に悩む北茨城市の問題について、星野リゾートの星野さんが関与される番組が放送されてました。

「震災、原発のせいにするのはやめよう」「元々あった原因が本当の原因」ということを、政治家の人が言う大変なことになるでしょうけど、厳しい言葉の後、地元の人と建設的な議論をされていたことに、経営者のあるべき姿を見ました。

2012. 10. 22

「負けられない」試合の中で

セリーグのクライマックスシリーズは面白かったです。

「負けたら1年が終わり」の中での3連勝。

打てなくて構わない、と思いながら打つことはないでしょう。

打たれてもいい、と思いながら投げることもないと思います。

でも、「絶対に負けられない」という気持ちがあるかどうかで、選手の動き、力の出し方は変わってくるものなんだろうな、ということを感じました。

長いシーズン、毎試合そんな環境で試合をすると、身体が持たないでしょうし、我々も、一日中張り詰めた空気の中で仕事をしていると、どこかで切れてしまうでしょうけど、

「絶対にミスは許されない」という環境、立場で仕事をしているかどうかで、いずれ大きな差が出てくるものだと思います。

2012. 10. 23

日常生活とクレジットカード

クレジットカードは、自分たちの生活の中に入り込もうとしてくる存在。

契約の動機として、「スーパーでの買い物で割引になる」「窓口で勧められて」「ポイントが貯まるから」、というお話しが多いです。

光熱費の支払いにカード決済が使われていたり、携帯電話にクレジット機能が付けられたり、家賃の保証会社にカード会社が付いていたり、

例えば、スポーツクラブや何らかの利用料金について、カード会社が集金代行をしている、という例もあって、日常生活の中に、カード会社は密接に関与してきています。

キャッシングの高金利のことや、過剰貸付のことは社会的な問題になりましたが、ショッピングであっても、リボ払いの残高がふくれてしまうと、いずれ支払いができなくなります。

カードの特典は便利に使っても、逆に、カードに生活を振り回されたいいけない、ということは、意識しておきたいところです。

2012. 10. 24

机の周りの状況と余裕度

写真を撮るのをきっかけに、机の周りをきれいにしました。

残念ながら、すぐに元に戻った部分もありますが…、不要なものは随分と処分できました。

司法書士会から届く会報なんかも、袋を開けた時に中を見て、必要な部分だけPDFにして処分するようにしていますが、その場で見きれないと、積み上がっていきます。

机が狭くなると、単純に「仕事の効率が悪くなる」という問題もありますが、「机の周りの状況で、その人の頭の中の余裕度が分かる？」というのは、私の仮説のひとつです。

やっと頭の中に隙間ができたので、昨日から、CFP試験のDVDを聞き始めました。

本来であれば、もう問題集を解き終えていないといけない時期ですが、いろんなことに押されて潰れかけ。今回の予定は完全に狂っています。

2012. 10. 25

選ばれたことへの喜びと

自分も歳を取ってきたのか、ドラフト会議で指名された選手の喜びの声を聞いていると、もしかしたら、司法書士試験に合格した時の自分と、似たような立場にいる方たちなのかも？と感じました。

選ばれたことに対する喜び。

それは純粋にうれしいものでしたが、私は試験に合格したことで達成感を感じ、力を抜いてしまいました。

「ここからが長い」ということが、全く見えていなかった。

「これからやな」と言ってくれる人の、その言葉の意味が分かっていなかった。

それと比べるのは失礼ですが、一流の選手になる人は当然、プロになれたことで満足することなく、「ここから」ということが分かっている方、なのだろうと思います。

2012. 10. 26

いいと思うことを言葉に出す

今週初めに送りつけたニュースレターを見て、古くからの友達なども連絡をくれています。ちょっと聞いたことがあるんだけど…という話も続きますが。

開業して少し経った時、「そうやって丁寧に仕事してたら、どんどんお客さんが増えてくるよ」と言ってくれた業界の先輩も。

言った本人は忘れてましたが、言われたほうは、そんな何気ない一言を覚えているものです。

本を読んでいると、「褒めることが大事」みたいな話を目にする機会が増えました。

今まで、事務所の中で意識して褒めることも、当然褒められることもなかったですが、

他の事務所から入ったスタッフにそれらしいことを言ってもらえると、「いい」と思う部分を言葉に出すことは相手にプラスの影響を与えるんだな、ということ、気付かせてもらえます。

2012. 10. 27

今月はもうひと踏ん張り

何も予定がない土日は、いつ以来か分からないくらい。

ゆっくり休みたいところですが、CFP試験2週間前になって、やっと分厚い問題集を開きました。一通り解き終えるまでが大変なので、今回はさすがに厳しい。



今月は、いろんなお仕事が進まない状態に陥って、新しい案件を受けられない状況でした。悩ましいことも多くて、やるべきことを考えるだけで、気持ちが悪くなるくらい…。

そんな中でも、請求書をお出ししていかないと事務所は成り立たないし、かといって、やる事が溜まるといろんなところで支障が出てくるし、

もうひと踏ん張りしないといけないところです。

2012. 10. 28

与えられた職業

「30周年！小泉今日子」というタイトルが気になり、昨日のNHK「SONGS」を見ました。子どもの頃から聞いていた曲が、懐かしかったです。

アイドル時代を振り返って、語られていた話。

『楽しいとか演じるとかより、意外と自分に与えられた職業という意識が強かったので、一生懸命やりましたね。自分の意思で動きたかったし、自分の考えで動きたかったので、それを分かってもらうために、きちんと仕事をして、きちんと大人に向かい合いたいなっていう風に思って、やってたと思います』

「自分のやりたいようにしたい」と思うなら、それだけ、結果に対する責任も負っているということですね…。

やりたいことが「自分の好きなこと」とかぶるのが理想ですが、毎日の仕事、ただ「好き」なだけではできない部分もあります。まずは、与えられた役目に対して一生懸命取り組むべし、ということなのだと感じました。

2012. 10. 29

器がないとモノは入らない

今日は来客が6件、外での打ち合わせ1件。

新しい予定も3件入りました。

しかし、動けば動くほど「仕事が前に進んでいる」ことが実感できると、苦にはなりません。ここ最近、逆の状態だったので、余計にそう思います。

仕事は、入って来てくれる環境を作っておかないと、入って来てくれません。

目には見えないことなので、「そんなこと関係ないだろ」と言われるかもしれませんが、器のないところにモノが入らないのと同じこと、と思っています。

2012. 10. 30

自分の居場所があること

今日は、大阪市内で中途半端に時間が空いたので、インターネットカフェで受験勉強の予定でした。

しかし、インターネットカフェが見当たらず、市役所のイスに座ったり、川沿いの石の上に座ってみたり…。お昼時が終わってやっとカフェに落ち着けたと思ったら、喫煙席。

短い時間でも、事務所に戻るべきでしたね。

事務所でも家でも同じですが、自分の落ち着ける場所があることは、幸せなことなんだと感じました。

2012. 10. 31

目の前の坂を避けたら…

今日は、登記の申請に堺東まで2往復。

朝は8時33分に法務局着。

昼からも事務所にいる2人は忙しそうなので、自分で走ります。

しかし、久しぶりに自転車をこぐと、帰り道の坂道を思うように登れません。

2回目の帰りは目の前の坂が辛くて、横の道にそれましたが、緩やかながらもっと長い坂が続き、余計にしんどい思いを…。

これって、人の道と同じだよな、と考えていました。

2012. 11. 01

報酬形態はシンプルに

今まで頼んでおられた事務所さんの報酬形態が分かりづらかった、というお話を聞いて、料金表を作成。

どれだけ手間が掛かるかは、ケースバイケース。

内容を拝見する前に報酬を確定させるのは難しいことですが、不透明な部分は極力なくすようにしないと、と思います。

相見積もりを取られることはほとんどない、と思っていますが、報酬は安くても、「実費〇万円」みたいな感じで載っていることがあります。金額で比べるとしても、全体を見ないと分からないです。

さて、今日は、育休中のスタッフのご家族と食事に。

赤ちゃんを向かい合って抱っこすると泣かれたので、ならばと前向きに抱っこすると、恐る恐る後ろを確認する仕草…。で、結局泣かれました。

2012. 11. 02

どこに時間を使うのか

無事に終わった…と、ホッとできる感覚は、金曜日の夜ならでは。

今日は、このシーズン初めて、事務所の暖房をONにしました。

つい最近まで、暑い暑いと言っていた気がしますが、季節の変化も、1週間が過ぎるのも早いです。

今日の来客は4件。

不動産の登記、会社の登記、住宅ローン、自己破産と、内容はさまざまですが、うち1件は、予定時間を40分オーバーして終了しました。

「〇〇さんは話が長いから…」ということを知ることでもあります。基本的には、話すことより、聞くことのほうがパワーを使うもの。

打ち合わせに時間を使うことが、依頼者の方にいい意味に受け止めてもらえてるのかどうか、については、気にしておかないといけない部分です。

2012. 11. 03

繁盛店からのヒント

NHK「仕事学・落合務 予約が取れないレストランの秘密」という見出しに惹かれて、ビデオに入れました。第1回は、「リピーターはこうつかめ！」。

イタリアンのお店のディナーメニューは、3,990円のコースのみ、とのこと。

何を頼んでも追加料金がないというのは、お客からすると行きやすい。お店側から見ると、「お客さんはみんな平等なんだ」と言われていました。

『お客さんの味覚のほうが繊細。前回よりもおいしく作らなければ「同じだね」と言っただけない。味はゆるやかに右肩上がりで進歩していかなきゃ』

『プロフェッショナルな料理人とは、料理に対して真面目に努力を怠らない人。お金をもらうんだから。料理が好きだからとか、そんな気持ちでなったらダメ』

などなど、いい話がたくさん。

「同じことを繰り返すんだけど、同じではダメ」というのは、微妙だけど大事な感覚です。

再放送は、月曜日の朝。

シリーズの2回目は、また木曜日の23時からのようです。

2012. 11. 04

なぜFPだったのか

C F P 試験（金融資産運用設計）の1週間前です。

昨日やっと基本講座のDVDを聞き終わりましたが、問題集はまだ1/4程度…。

投げ出したいところですが、次回、来年の6月試験のためにと、できるところまでやっておきます。

2級のFP試験を受けたのは、平成17年のことでした。

当時は、「多重債務の原因は全てが高金利」という風潮でしたが、同じ業界にしながら、それでいいんだろうか、情報の流し方としてマズイのではないかと、疑問に感じていました。

金利の問題は問題として、家計の中身から考えないと、根本の原因は見えないんじゃないか、と。

そこから7年も経ってしまいましたが、C F P 試験の最後の1科目になって、「行動ファイナンス」も出てきました。『人は、必ずしも合理的な行動を取るとは限らない…』。

そこにたどり着けて、目的の一つは果たせたように思います。

2012. 11. 05

いずれ旅立っていく

プロ野球もオフに入り、選手のトレードの話が出てくるようになりました。

F Aの制度ができて、中心選手が動くのは珍しいことでなくなりましたが、コーチも他球団に移動するんですね…。

しかし、力のある人が、自分を必要としてくれる場所、自分が魅力を感じる場所に動こうとするのは、ある意味自然なことなのかもしれません。「方針が違うから、もう一緒にはやっていけない」というのも、よく分かります。

話は少し違いますが、今日、事務所の中で話をしていたこと。一人の資格者の人に、正社員として長く勤めてもらうことを求めるのかどうか。

メンバーが固定できれば、その分安定はするでしょうけど、いずれ独立するつもりの人であれば特に、力が付けば「指示されたやり方より、自分の思うやり方のほうが…」と感じるシーンも増えてくるでしょうし、無意識の中で従えない場面もでてくるでしょう。

だから、「せっかく教えたのに…」ではなく、「いずれ旅立っていくもの」と、最初から割り切って働いてもらうほうが、お互いにとっていいんじゃないかと思います。

2012. 11. 06

言葉なしで伝わる部分

いつもは、朝食前に取りに行く新聞も手にせず。

毎朝、予定を入れるようにしているツイッターも、完全に忘れていました。

今日は、違う裁判所で裁判2件。

はじめての裁判官であれば、その顔を見た瞬間、ホッとしたり、不安になったりします。

言葉を発しなくても、伝わるものがあるのが不思議ですが、人同士のコミュニケーションは、どこでもそんなところから始まっているものかもしれません。

アポなしで来て下さった相談者の方は、片道1時間半かけて来て下さった、とのこと。

知っている方が、「いつ行っても誰かいる」と知って来て下さるのはありがたいですが、新規のご相談は、ご予約がないと対応できないことがあります。

2012. 11. 07

求人情報更新しました

事務所のスタッフから、「仕事のやり方をこのように変えたい」という申し出があったので、全面的に賛成。

そういった意見を出してもらえるような場を、日頃から作っておかないといけないよな・・・と気付かせてもらえました。

今日は、事務所の求人情報を更新しました。

給与面では、最初からいい条件をお出しできないので、何を特徴にできるかと考えたら、「いろんな業務を経験してもらえます」という部分しかありません。

私自身、勤め始めた時は、不動産登記の「抹消－移転－設定」の繰り返しからスタートしたので、特に実務経験のない方であれば、「何でもやる」ということが楽じゃないことは分かります。

でも、お客様からのニーズがある限り、それにお応えしていくのが与えられた役割。

難しいことがあっても、自分で勉強して乗り越えてくれるような、芯の強い方との出会いをお待ちしています。

2012. 11. 08

技術プラスアルファの部分

一時は「申立待ち」がゼロになっていた自己破産も、最近は重くのしかかってきています。いろんな事情があって、なかなか前に進みません。

しかし、司法書士としての技術が求められるのは、任意整理よりも自己破産。自己破産よりも個人再生、という私の感覚は変わりません。

手紙やメールを送れば、その日のうちに連絡を下さったり、書類が1つ揃う度に郵送して下さる方もいらっしゃいますが、書類が整うまでの段階で、右を向いている依頼者の方に前を向いてもらったり、後ろに進もうとしてしまう依頼者の方に、前を向いてもらえるよう働き掛けたり、そういった面でもパワーを使わないといけないお仕事。それも含めて「仕事」です。

2012. 11. 09

甘いものに走る

今日は、近所の金融機関で現金決済。

本も持たずに出ましたが、売主さんが印鑑を忘れて来られ、終了まで2時間半。

私は、自分のこと。

後の予定のことが気になっていましたが、そんな間に、仲介業者さんが全員分のお茶を買って来て下さいました。女性ならではの気遣いでした。

夜、自分が事務所で使っていたコップを洗おうとすると、1つのコップにスプーンが4本もささっています。

粉末のロイヤルミルクティーを飲んで、「もう1杯」を追加し…を、それだけ繰り返していたようです。

2012. 11. 10

分厚い書類に囲まれ

C F P 試験前日。

いつもなら問題集の写真でも載せているはずですが、机の周り
にあったファイルを、わざとらしく積み上げてみました。

「今回は無理」と分かっていつ
つ、先週の日曜までは「もしか

したら、何とかなるかも…？」と思ったりもしてましたが、今週は全く問題集を開けず。

仕事も溜まっているので、明日の試験は受けないことにしました。

受験料、もったいないですが。

1つ1つのお仕事が、それぞれかなりの分量の書類になってます。

私の机の周りだけでなく、他のスタッフの机の周りも、それぞれこれに近い状態です。



2012. 11. 11

ツキを生かせるかどうか

NHK「仕事学のすすめ 落合務 日本一予約が取れない店の秘密」の第2回も、いいお話でした。

イタリアでの修行時代に身に付けた味を、日本で「口に合わない」と言われても、変えなかったこと。結果的に、ある人と出会いからお客さんが増えていった、という話。

「ツキですね。やっぱり仕事は」と笑われた後、

「ツキが来た時に、うまく乗れるかどうか。そういう流れが来た時に、それなりの知識と技術と、それに対応できるかどうか。それは誰にでも来ると思うんです。来た時に自分なりに勉強していたし、作れるかと言われたら作れるし…」

という話に、そういう感覚、大事だよなぁと思いました。

私自身は、「きちんと準備していた」と言えませんが、今まで「運が良かった」としか思えないような出会いが、たくさんあります。

2012. 11. 12

使えるルールは使う

今日の売上の決済は、事務所の他の司法書士に行ってもらい、私は、別件の書類をお届け。

事務所に戻ると、「電話も多くて、仕事が進みません…」の声。

今抱えているお仕事で、みんないっぱいいっぱいになっていますが、その中でも新しいお仕事を言っていただいて。ありがたいことと受け止めて、やっていきます。

個人再生準備中の債権者からは、「もう待てないので、訴訟を起こします」の電話。きっと、「待ち」の案件が大量に溜まっているんでしょうね。

訴訟を起こしてもらって、結果的に早く進んで助かった例もありますが、今回の声は非常に厳しい。

1回目の期日に欠席できる裁判のルールを、多くのケースでは相手方有利に「使われる」側に立ちますが、今回はこちらが有効に使わせてもらって、切り抜けるしかありません。

2012. 11. 13

知らない人に助けてもらう

はじめての会社さんを訪問するのに、駅を出ると大雨。

遅刻するわけにもいかず、

ビショビショになるのを覚悟で、少し離れたコンビニに向かう途中、「傘持ってないんか。これあげるわ」と、たまたま通りかかったおばちゃんが、鞆からカッパを出してくれました。

なんて親切な人…。

おばちゃんには「ありがとう」と言うことしかできなかったの
で、私もどこかで、知らない方にお返しできるようにします。

2012. 11. 14

手も大事、頭脳も大事

今日の簡易裁判所の法廷。

私の期日が入っていた時間は、他に司法書士はいなかった様子。

明らかに雰囲気が変わったなあ…ということ、今更ながらに感じます。

午後からは新規相談が1件。
その後はいろんなお話が動いて、手が足りない。頭脳が足りない
…。
今日届くはずの郵便物が、届かない。
明日にしようと思っていたことが、急ぎだった。
「今日」と約束していたことが、できていない。
あげくの果てには、登記申請の順番を考えて不動産を並べたの
に、出てきた証明書で順番をバラバラにされたのに手こずり、
「手が足りなければ、自分がやればいい」が通用しなくなりそう
な現実です。

2012. 11. 15

受ける時には快く

午後から急に寒くなり、加湿器を出しました。
昨日に続いて、朝から裁判所、法務局、市役所と回って、打ち合
わせが3件。
余裕のない時に限って、急ぎのお話やレアの事例が舞い込み、夜
や休みの日にも予定が入ろうとします。
不思議なようで、ここまで続くと、何か意味があるんだろうなあ
…と考えるようにしています。
間に合うのかどうか、1つは「やる」と言ってくれたのでお受け
して、もう1つは「やる」と言ってくれたけど、外部の先生にお
願いしました。
自分も忙しいはずなのに、事務所の内外で快く仕事を引き受けて
くれる人がいるのは、今の私にとって何よりも救い。そういう人
にまた仕事が集まっていく、という傾向は、間違いなくありま
す。

2012. 11. 16

素通りはなぜ？

何かの申し込みをする時に、

印鑑は押してありますか

本人確認書類は同封されていますか

といった文章に、チェックを入れてから郵送するようになって
いることがあります。

立場が変わり、「見落とし」「読んでいない」「気付いていない」
ミスを防ぐために、どうすればいいかと考えると、同じような
チェックリストにする方法に行き着きます。

自己破産や個人再生の申立書類とセットになっているチェック
リストも、同じ趣旨でしょう。

ところが、「当然上から順番に見てくれるだろう」と思ってい
ても、ある部分は素通りしてしまう、ややこしそうなことは飛ばさ
れてしまう。

何でここだけチェックが抜けているの？ということは、事務所の
中でもあります。「そういうものなんだ」で解決させたらいいな
いですが、そういうこともあります。

2012. 11. 17

「これからは・・・」という話は

ダイエットでも勉強でも仕事でも、返済計画の中での節約・収入
アップなんかでも同じなのですが、

「これからやる」

「これからやろうと思っている」

といった言葉をそのまま受け止めるのは危険、と感じるシーンはいろいろとあります。

事務所の中でも言っています。

「勉強してからやる」なんて言っていたら、いつまで経ってもできないよ、と。

自分のことを考えても、「やってみたいこと」「行ってみたいところ」はたくさんあれど、行動に移せることは一部。

でも、本気でやる気があることなら、今から。

「やりたい」と言う前から、始めることができます。

冷たいかもしれませんが、特に仕事の中では、「これからは…」という話は慎重に受け止めないと、と思っています。

2012. 11. 18

赤目四十八滝

赤目四十八滝に行ってきました。

昨日は、しっかりとした雨が降っていたので、紅葉を楽しむ余裕はなく、片道20分の場所にある「千手滝」で引き返しました。それでも、独特の雰囲気味わえて、満足です。



そのまま、滝の入口にある「赤目温泉隠れの湯 対泉閣」に。雨に濡れた体に、温泉は最高でした。

紅葉には一番いい季節。

今朝は雨が上がって、9時には駐車場が満員になっていました。

自宅から1時間半の距離で、それでいて深い山の中。

お宿の接客も良くて、疲れた身体

を癒しに行くのに、ちょうどいい場所を見付けました。



2012. 11. 19

守る部分と変わっていく部分

昨日の情熱大陸は、料理人「菊乃井」の村田吉弘さん。

ロンドンに新しく出される店の、開店準備の過程を取り上げられていましたが、独創的な寿司を紹介されたシーンでの言葉。

『自分が理解できひんもんはみんな、それは違うとか、そういうもんと違うと言い出すわけや。寿司っていうのはな、みたいな講釈をたれるわけやねん。そういう講釈たれだした時には、もう終わる前や』

そういう感覚は分かるなあ…というのと、自分もそうやって、できないことから背を向けている時はあるんじゃないかと、反省する面もあります。

司法書士として、変えてはいけない部分と、どんどん変わっていかないといけない部分。

変わらないといけない部分は、時代と共に、また違ってくるんだろうな…と、そんなことを考えていました。

2012. 11. 20

結果が同じの中でも

「買主指定」「銀行指定」など、いろんな所で決まった司法書士の存在があります。

その指定が「絶対」である場合と、そうでない場合がありますが、「いつものやり方」で仕事ができることは、お互いにとってメリットがあるのは間違いがないところです。

指定が「絶対」ではない場合に、「吉田ができるように話をしたよ」とお客さんに言っていただけなのは、ありがたいこと。

特に不動産を扱っている会社さんであれば、他の司法書士と接する機会も多いと思いますので、結果が変わらない中での「違い」が、一番見えやすい場所に立っておられるんじゃないか、と思います。

2012. 11. 21

まだまだ山が続く

自由に仕事をしている中でも、余程のことがないと、「早く出勤しないし、夜遅くまで仕事をしない」ようにしていますが、今日は1時間早く出て、書類のチェックに見積書の作成。

そして、スタッフが来る前に神戸に向かいました。

私が行かなくても済む用事ですが、じわりじわりと悪循環。

先週は、「何とか次の水曜日を乗り越えたら…」と言ってましたが、まだまだ山が続きます。

ところで「検察審査員候補者となられた方へ」という郵便物が届いていました。

「検察審査員となることができない方」として「司法書士」の記載がありましたが、選ばれたとなると、負担が重そうです。

2012. 11. 22

救われたと感じる瞬間

今日もいろんなことがありましたが、思うようにいかない中でも、

補正のために動いている最中に登記が完了したり、「次の段取りまでに間に合わない」と危機感を持っていた登記は、表示登記の完了予定日と間違えて見ていたり、ああ救われた…という瞬間があります。

単なる勘違いは別として、意識していない中でも、「何かに助けられていることがある」ということは、分かっておきたいです。

12月から加入してくれる司法書士スタッフも決まりました。

「楽な環境ではないですよ」とお伝えしている中でも、あえて選んでもらえたことへの感謝と、私自身、その期待を裏切らないようにしないと、という、2つの思いがあります。

2012. 11. 23

アフターサービスの意味

今日は、車の試乗に行ってきました。

今乗っているサニーは、もうすぐ9年。

生産も停止し、同じ形が走っているのは、ほとんど見掛けなくなりました。

思い入れもあるし、車にお金をかけたくはない。

「まだまだ走る」という気持ちもありますが、「タイヤが滑る感じがする」「事故が怖い」という奥様も声も無視できません。

今の車を買ったお店は倒産していて、アフターサービスがゼロだったので、余計に手入れをしませんでしたが、定期点検から車検までセットで面倒を見てくれるプラン（先にお支払いしておく）の提案。

「メンテまで世話をするのが当然」ということを経験していなかったのは、サービス業に携わる人間として、マイナスだったことに気付きます。

2012. 11. 24

久しぶりに配置換え

新しい方に入ってもらう前にと、久しぶりに机の配置換え。

見ようとすれば全員の顔が見えますが、できるだけ個別のスペースを確保できるようにと、考えてみました。結果として、2年前の姿に少し近付きました。

各自の担当事件が、今どんな状態にあるのかも、一覧表にまとめてみました。

当面は、毎朝更新して、紙ベースで配ろうかと思えます。

一番多いスタッフで、30件近くを抱えています。

うち、「今」すぐに何らかの行動を求められている案件が、15はあります。

同時並行で15の作業をできるわけもなく、なかなか大変なのですが、私も連休を使って少しでも前に進めようと、事務所にこもっています。

2012. 11. 25

自己表現は基礎の後に

今週の「カンブリア宮殿」は、「ひらまつ」の平松宏之社長。客単価25,000円の高級フランス料理の店に、客足が絶えないんだそう。

『自己表現する力がなかったら、料理人はやっていけない。何もかもが自己表現しながら、生きていかななくてはいけないと思う』という言葉の後に、

司会の村上龍さんが「自己表現というのは、フランス料理の基礎をきちんと学んだ上での話で」と話を振ると、『もちろんです。もちろんです』と頷かれていました。

私も今になって、基礎がどれだけ大事か。

受験勉強時代や勤めている時に身に付けるべきことがどれだけ大事か、分かるようになりました。

基礎があるからこそ、応用が利く。

形の決まったことができ、その後に形のない仕事ができたり、アイデアが浮かぶようになるのであって、その逆はないのだと思います。

2012. 11. 26

どこかで客観的な視線を

自己破産の受任前の方から、「書類が揃わないので頼みに行けない」とお電話。

そう言われると、「いえ、全部揃わなくてもいいから、ある分だけでも持って来て下さい」と、こちらが気を遣います。

「何ヶ月経っても書類が揃わない」事例に当たると、自分たちは一体何をやっているんだろ？と思うこともありますが、ハードルが低い方がいいのか、そうでない方がいいのか、その方の性格にもよるので、「こうだ」という答えは出ないところです。

ひとつ言えることは、仕事が欲しい心理状態に陥ってしまうと、忙しい時であれば疑問を感じるようなお話にも、乗ってしまう可能性があること。

日々の仕事の中で、どこかで客観的な視線を持ち合わせておかないといけない、と思っています。

2012. 11. 27

移動に便利な場所

今日は、事務所の3人がそれぞれ別便で大阪市内へ…。

私は、まとめて回ってこようかと考えましたが、自分が打ち合わせに参加していないことに頭を使う余裕がなくて、お任せすることに。

「ついでに用事を」と考えると、効率が良さそうですが、中途半端に約束までの時間が空いてしまい、逆にロスが生じることもあるので、駅前にいるメリットを生かして、身軽に移動するほうが正解、と思うことも多いです。

事務所から天王寺駅まで、15分程度で着けます。

近所にある堺東まで自転車で走っても同じくらいの時間ですから、いかにして移動に便利な場所に身を置かか、というのは、仕事をする中でかなり重要な要素です。

2012. 11. 28

とりあえずファイルに挟む

昨日の日経新聞に、『できる人の「机」整理術』という記事がありました。

記事から引用します。

「弁護士の葉玉匡美さんの机も書類で埋め尽くされている。書類は手の届く範囲に積み上げていき、やがて書類の山が増えて邪魔になったら、上から3センチ分だけ残して、遠くに押し出す。外側の書類が机から落ちそうになったら捨てる」（以上引用終わり）私の机の周りは、片付けてから1週間もすれば、また元のように散らかってしまいます。外に外にと広がるのは同じですが、記事のようなルールもなく、どう見ても「できる人」の机には見えません。

そんな中でも、事務所で徹底できている習慣は、「とりあえずクリアファイルに挟む」です。袋にすると開け閉めが面倒だし、中が見えないので、私の場合はダメ。

例えば、認証してもらった定款など、袋に入れて書類をもらうと、その後が困るので、事務所からお客様に書類をお渡しする時も封筒を使わず、透明のクリアファイルのままお渡ししています。

2012. 11. 29

仕事の遅れとプレッシャー

経過報告の手紙を送った依頼者の方から電話があると、ドキッとする現状。

手紙を見て電話をくれたのに、一瞬、入れ違いになったかと思えます。

「仕事が遅い」「報告がない」というのは、信頼を失うことにつながる、分かりやすい出来事。毎日、見えないプレッシャーと戦っています。

一方では、完了予定日を2日過ぎても終わらないので、法務局に電話してもらおうと、「立て込んでいるので、あと2日くらいかかります…」という対応だったそう。

予定日はあくまでも「予定日」なので、そうやって開き直られると強いですが、他所に頼めることであれば、もうそこには仕事を頼まない、ということになります。

2012. 11. 30

通い帳での支払い

今日の売買取引は、地域密着で経営されている感じの小規模の不動産屋さんで。

売買契約と同時の決済でしたので、契約書や重要事項の説明の間、結構な待ち時間がありましたが、月末なので、「通い帳」を持って支払いに来られる方が次々と。

今でもこんな支払い方があるんだな…ということと、毎月、お顔を見れるお付き合いも、いい面があるんだろうなあ…と感じました。

振込みは便利ですけど。

午後からは、自己破産の書類作成を受任。

今月はずっとバタバタしていましたが、債務整理をお受けするのは、今月お2人目です。

土日の課題も残していますが、何とか月末の金曜日を乗り越えることができました。

2012. 12. 01

予備の応接机復活

先週に続いて、机の配置換えをもう一度。

今回は思い切って、台所（冷蔵庫や食器入れ）、ロッカー、コピー機も動かしました。

タイルカーペットの下には、ネットワークや電話の線が張り



巡らされていますが、余裕を持った長さにしてもらっていて助かりました。

もっと欲を言えば、ネットワークの線はもう1本余分にあってよかったですと思いますが、引っ越しした時に、「パソコンの台数以上に線を引いておく」という発想ができませんでした。

予備の接客机も復活です。

靴を脱いで上がってもらうのにご面倒なことは、こちらで対応させていただきます。

2012. 12. 02

『「微差が大差」の人生観』

木曜日の日経スポーツ欄に、豊田泰光さんの『「微差が大差」の人生観』という記事。

オリックスの森脇新監督の言葉が紹介されていました。

『僕は微差は大差だと思っている。その日だけで見ればほんのわずかなことで、取り上げるまでもないちょっとしたことでも、それらが積み重なれば大差になる』（記事から引用）

こういう考え方、私も好きです。
「やるかやらないか」で差がつくのは当然ですが、やるとしても「どのレベルでやるのか」でも差がついていくもの。
その場をいくら一生懸命やっても、長い期間をかけてコツコツと積み重ねた力には勝てないもの、だと思っています。

2012. 12. 03

全体の環境作り

今日から新メンバーが加入です。
まずは、やはり不動産登記から。
たまたま案件が固まっていたので、「未経験」と聞いていたオンライン申請の工程をマスターしてもらえるよう用意していましたが、
「一体化された敷地権の土地のみの登記については、オンライン申請を使えない」ということは知りませんでした。
買戻権の登記が、一体化の時に閉鎖された登記簿に残っていたためですが、早速、取下げもしてもらうことに…。
先輩が教えてくれているのを見ていると、「みんなどうやって仕事を覚えただろ？」と不思議に感じるくらい大変ですが、教えてもらわないといけないこともあれば、自分で身に付けていけないこともあり。
私自身の役割としては、また「時が経てば、自然と力が付いていたな」と言えるような環境作りを、と考えてやっていきます。

2012. 12. 04

「今」が続くと限らない

いろんな事例に接していると、人が生活していく中では、「さまざまな事情の変化があるものなんだ」ということが分かります。返済中の方には、電話に出てもらえなかったり、通じなかったりして、手紙で連絡。

債権者から「直接請求させて下さい」と言われる中、最後にハガキで連絡を、という例も続いています。

個人再生や任意整理で返済計画を考える中では、「今の生活が続くもの」という枠の中で考えてしまいますが、

私の事務所も、3年後5年後にどうなっているかなんて、全く分からないです。

少なくとも、「今の状態が続く」と考えて過ごしてはいけ無い、ということなんだと思っています。

2012. 12. 05

不動産の売却も並行して

寒くなると、ふと「たこ焼き」を食べたくなくて、午前の用事を済ますと、遠回りして事務所に戻りました。

新聞の広告なんかを見ていると、カニの写真もチラホラ。

カニを食べに行きたくなります。

午後からは、不動産業者の方と一緒に、相続や不動産売買の相談に。

私自身が売却の手続きを代理することはできませんが、相続や自己破産に付随して、不動産の売却を伴うお話は複数、並行して進んでいます。

事務所に帰ると、ずっと頭を抱えていた準備書面を仕上げました。

どうやったらここまで話をややこしくできるのか、と、言いたいことを理解するだけでも大変です。

2012. 12. 06

同じ仕事の中でも

事務所の中で、「うちのお客さんには、こういった傾向があるのでは」という話をしていたのですが、

12月4日の藤村正宏さんのブログに、「あなたの発信していることで、お客さまが決まる」という記事がありました。

そうであるならなおさら、日々発信する内容に気を配らないといけないし、結果に対しても責任を持たないといけないよな…と思います。

間違いなく言えることは、「仕事があればそれでいい」とは絶対に思わないことです。

同じ仕事をしていく中でも、どんなお客さんと出会って、どんな価値観を共有したいのか。自分の思いを伝えられるかどうかは大きいです。

2012. 12. 07

請求書の用紙がボツに

昨日、請求書のシステムをバージョンアップしてもらって、復興特別所得税の影響が自分の仕事にも及んでくることに気付きました。

まだたくさん残っている専用の用紙も買い替えないといけない、とのこと（コピー用紙を使えば済む話ですが）。経理によると、給料計算のソフトにも支障が。

結構、いろんな所で影響が出てきそうです。

さて、今日は、管財に移行した破産案件について、管財人の先生に引き継ぎ。

原因の原因、背景にも話を向けながらじっくりと話を聞いて下さって、

手助けする立場に立つ人に必要なのは、ただの厳しさだけではないし、ひとつの問題に向かい合うためには、その他のいろんな経験がないとできないことなんだな、ということを感じました。

2012. 12. 08

心身の健康が大前提

ここ2か月程、嵐のようだった事務所内も、少し落ち着いたようです。

といっても、新規案件の入り方が緩やかになっただけで、止まっている案件が動かないのは変わらずです。

経営のことを考えると、新規の案件が落ち着いたら困るのですが、目が痛い、頭が痛い。風呂の中や寝る前に仕事のことが頭に浮かんできて、気持ちが悪くなるという、危険な状態でした。

「身体の無理が利かない歳になったのかなぁ…」と、弱気にもなっていましたが、仕事が溜まっているのを承知で「赤目の滝」に行って、かなり楽になりました。

行き詰まりそうな時に無理をしても、余計にしんどくなるだけ。いい仕事をするためには、心身が健康であるのが大前提、ということに、改めて気付かされた2か月でもあります。

2012. 12. 09

自信があれば気にしない

選挙の時期に書いておこうと、どこかに書いてあった下記のフレーズを探して、船井幸雄さんの本の中を引っ張り出していました。

『同業者や他人の悪口を言わない人は「超一流」と言える』は、平成21年に出版された「二つの真実」（船井幸雄著）にありました。

船井さんは、政治家のことを指して書かれているわけではありませんが、この本を読んでから私の頭の中では、「同業の批判をしている人は、一流ではないんだ」と、変換されるようになっていきます。

私もつついと言いたくなることがあるので、まだその域に達していないのですが、できるだけ自制するように心掛け。

本当に自分に自信があれば、「自分がどう行動するか」であって、「他人のことは気にならないもの」なんだと思います。

2012. 12. 10

できるようになる過程

スタッフに、「ちょっと厳しいかもしれないけど」と断った上で、課題を出していました。

自分の感覚の中で、「できること」「得意なこと」を繰り返すのは、ある意味楽かもしれませんが、

できないことも「できるようになる」過程があるから、成長していけるんじゃないかな…と、そんなふうに思っています。

私自身もまた、準備書面を目の前にして頭を抱えていました。

私の場合、「できない」と言っても誰も助けてくれないし、しないといけない立場にいるからやる。仕事だからやる。
最終的に支えになるのは、そんな思いのような気がします。

2012. 12. 11

最後にいただける言葉

2年近くかかった業務が終了し、わざわざお仕事を早退して、事務所に顔を出して下さいました。

1つ1つの案件が長期化する傾向があり、その分、事務所の負担も重たくなっていますが、

それよりも何よりも、信頼関係を築き続けられるかどうか、今まで以上に重要になってきます。

短期間の、形式的なお付き合いでは見えないことも、長く、深くなれば、見えてくる部分もあるでしょう。「きちんと仕事をする」という当たり前のこと以外にも、大事になってくる部分もあると思います。

最後になって、「吉田でよかった」と、お世辞でも言ってもらえることは、何よりありがたいことです。

2012. 12. 12

独自のものを残す

過去に在籍したスタッフが、独自に作ってくれていた資料。

「分かりやすい」と評判です。

日常の中で、流れていく仕事をこなしていただくだけでなく、資料であったり、書式であったり、何か後に生かせるものを作ってもらえると、事務所にとっても財産になりますし、

「これは〇〇さんが作ってくれたんだよ」と、事務所で言い伝えることもできます。

「事務所のために」という意識によるのではなく、自分の頭を整理するために、自分が仕事をしやすいようにと工夫してくれたことが、結果として他の人の仕事に生かされた、という、ひとつの理想的な場面でした。

2012. 12. 13

迅速丁寧に？

「迅速丁寧に」というのは、司法書士事務所のキャッチコピーにあるような気もしますが、外に対して言うことではないとしても、事務所の中では大事にしたい部分です。

「速いけど雑」、もしくは「時間がかかるけど正確」ということもありえますが、「速く」と「正確に」というのは、きっと両立を目指せる部分だと思うのです。

私はせっかちなので、「まだかまだか」と、催促することもあるのですが、

考えないといけない部分は、じっくりと考える。

手を動かせば済む部分は、速く動かす。

いずれの場合も、頭の回転を速くしないといけないのは、共通するところです。

2012. 12. 14

ちょっとした遊び心

日清食品から届いた株主優待。
毎回違う箱のデザインは、見るだけで幸せな気持ちにさせてもらえます。この時期なので、クリスマスプレゼントを受け取った気持ちにもなる面も。

中身はカップラーメンなんですけど。

会社の魅力は、商品自体だけにあらず。

中身へのこだわりも大事ですが、ちょっとした遊び心で、また違った角度からお客さんに喜んでもらうことができるんだ、ということをお伝えられます。



2012. 12. 15

「自分らしい人生を創る…」

「自分らしい人生を創るために大切なこと」(経沢香保子著)
はじめに、「トレンドーズの女性社員に語りかけるつもりで」書かれたとあるように、女性向けの本なのかと思いましたが、仕事とプライベートを網羅した「生き方」を考えさせてもらえる本。



共感できる記述も多くて、一方では、自分の言動と照らし合わせ、「これは自分のことをかも…」と、反省する部分もありました。

「自分らしく」というと、好きなように生きていていいようなイメージも受けませんが、

「自分の人生は自分次第」「ビジネスの世界では、信用と結果が全て」「立ち止まってしまう原因の半分は知識不足によるもの」という記述があるように、

優しさはあっても、甘さは感じません。

「男性と女性の違い」については、私が全く語ることのできない部分。

パートナーとの関係についての記述も、深かったです。

2012. 12. 16

このままではダメ…

昨日から風邪気味で、選挙の投票に出掛けた以外は、家でおとなしくしていました。

平成21年、民主党が政権を取った翌日のブログには、『さて、高速道路の無料化、子ども手当、派遣の禁止、本当にやってしまうのか』と書いていました。

私自身は、民主党の政策には疑問を感じながら、当時の「とにかく自民党はもうダメ」という雰囲気には賛成でした。

今回も、このままではダメ…という雰囲気は共通していますが、じゃあどこで満たされるのか。

為替レートや株価が、すでにジリジリと動いていますが、少しは期待をして、でも、流れをそのまま受け入れることもなく、動きを見ていたいと思います。

2012. 12. 17

負けに不思議の負けなし

今朝の読売新聞「編集手帳」のコーナーに、野村克也さんの「勝ちに不思議の勝ちあり。負けに不思議の負けなし。」の言葉が引用されていました。

昨日の選挙、「自民党の勝ち、民主党の負け」に対するコメントです。

『負けに不思議の負けなし』（野村克也著）には、野村監督も、どこかのパーティに出席し、ある企業家が経営者の心構えについてスピーチしていた時に聞いた言葉、と書かれています。

本を読んで、私も「全くその通りだな」と感じましたが、以後、その言葉を通して、物事を見るようになりました。

たまたま、うまくいくことがあったとしても、うまくいかないことには、必ず理由がある、ということ。自分への戒めにもしています。

2012. 12. 18

並行して進行中

事務所の中で、順番に風邪を引いている様子。

「休む時はメールでいいから（遠慮なく連絡を）」と言っていたら、本当にそういう事態に。

どこでもらってくるか分かりませんが、うがい手洗い。

予防に役立つことは、やることにしましょう。

複数の相続登記、売買の準備も並行して進めつつ、自己破産と個人再生案件は、先週1件。今週は1件と、年内にまだ3件申立です。

最後のあと一歩、の書類をお待ちしています。

2012. 12. 19

他の士業にできないこと

珍しい許可手続きのため、私の事務所で、お客様・行政書士さんと打ち合わせ。

資格はあっても、私に専門的な知識や経験がないこと。

私の力が及ばないことについては、最初からお願いすることになっています。

兼業でやっている者からすると、行政書士の専門性が発揮できるのは、「相続」や「会社設立」ではない、ように思います。

さて、明日と明後日は、仕事のピークです。

明日は、10時と10時半に裁判。

13時、14時に新規相談。同じく14時に書類のご返却のために来客。

15時半、17時半に打ち合わせの後、夜は事務所の忘年会です。

2012. 12. 20

事務所の方針は…

今日は、いろいろなことが集中して、珍しく予定がみっちり。

裁判2件。来客が5件。

個人再生の申し立てが1件、登記の申請が1件。

来客が同時刻に3件かちあって、申し訳ないことしました。

過払いの裁判の後には、業者側の担当者の方と立ち話し。

「事務所の方針はどうなっているのか」と、時々言われるのですが、「相手方の傾向や選択肢をありのままに説明して、依頼者の意向をお伺いする」という方針に、何も変わりはありません。選択肢の説明の中で、「個人的な感情を入れない」「〇〇すべき、といった思考では考えない」というのも、気を付けているところ です。

2012. 12. 21

現場での手間を減らす

今日は、売買が1件。

抵当権抹消書類の原本を持たせてもらえるタイミング。

返済資金の送金後になるか、もしくは着金確認後でないかダメか、そのタイミングで現場での手間が違ってきますが、今回ほどありがたい対応はありません。

「解除証書に物件を印字してくれていない」とか、「事前に資格証明書のコピーをもらえていない」とか、事務所に居ればどうってないことでも、決済場所では負担になるもの。

だから、事前に準備できることは、最大限にやっておきましょうと、次の決済のことで、事務所の中で話をしていました。

2012. 12. 22

カニのお取り寄せ

今日は、友人宅でカニパーティ（カキ、豚、鳥肉等も用意してくれていて、豪華な鍋に）。

どうすれば、家で美味しいカニを食べられるかな…と考え、通販やスーパーで売られているのを試したもののイマイチ。

ふと思いついて、金沢の近江町市場から配送してもらうことにしました。

姿、しゃぶしゃぶ用のむき身、肩から足のセットを組み合わせ。カニみそや身がしっかり詰まっていて、冷凍されていた足も、冷凍とは感じない食感でした。

また別の機会にも、見えそうな楽しみ方です。



2012. 12. 23

休みでも次から次へと

先週末に風邪を引いて、1週間ずっとしんどい状態でしたが、久しぶりにスーパー銭湯とマッサージに行けて、体調が戻ってきました。

午前中と夕方は、事務所で仕事。

電話も鳴らないし、他に誰もいないのに、次から次へとやることが出てくるのも、不思議です。

明日は、来客の予定も入れました。

年内の営業日があと4日しかない、というのは信じられないですが、お正月にゆっくりと休めるよう、今できることはやってしましましょう。

2012. 12. 24

自宅でゆっくりディナー

今日は、朝から夕方まで仕事。
お昼は一旦帰るつもりが、帰れず…。

そんな反動もあって、今日は食べたい物を食べようと、帰りにスーパーに寄りました。

自宅でゆっくりと、クリスマス仕様のディナー。

ステーキも焼きました。

パスタソースとケーキは手作りです。

ケーキは、これでもかとフルーツを乗せてみました。

イマイチきれいじゃないですが、お構いなしです。



2012. 12. 25

電話の向こうの状況

朝、事務所の中は1人だったので、1本の電話に出ていると、他の電話に出られません。

何度も何度も繰り返し鳴っているのは気になりましたが、「ちょっと待って下さい」と目の前の電話を保留にし、他の電話に出る、という器用なことができない人です。

そんなことで、初期のころ、回線が1つしかない時期に契約していたキャッチホンも、全く使えませんでした。

ちなみに、相手方の電話の後ろで、他の電話が鳴り続けていると、「電話、大丈夫ですか？」といった声は自然と出てきます。

「大丈夫です」と言われることもあれば、「すぐ掛け直します」と一旦切られることもあるでしょうけど、自分が経験していると、電話の向こうにある相手の状況も見えやすくなります。

2012. 12. 26

昔の携帯電話を見て…

最終日が迫ってきて、手を動かし続けています。

追われていたことに、もうちょっとで追いつけそうですが、まだ足りません。

さて、昨日開かなくなったキャビネット。

納品して下さった業者の方が助けに来て下さり、解決しました。

中身を全部引っ張り出していたら、10年以上前に使っていた携帯電話が出てきました。もしかして…とメールの画面を見ましたが、残念ながらデータはなし。

スカイメールマークを見ていると、今は全く違う意味で、この時は楽しかったな…と思い出します。

2012. 12. 27

各自が考えてくれている

明日が最終日とは、とても信じられない状態。

スケジュールが厳しい中で、それぞれが自分の役割を果たそうと動いてくれているのが分かります。

「年明けをお願いしますから…」 「7日に行きますから…」 というお電話も、何本かいただいています。

事前に言って下さると、「準備をしておける」という意味でも助かりますが、今の段階で、「年明けからもまたお仕事をさせてもらえるんだ」という思いを持たせていただけることは、何よりもありがたいことです。

明日も一日、よろしく申し上げます。

2012. 12. 28

無事に仕事納めです

最終日に自己破産の申し立て。

裁判所の事務処理が追いつかない（保管金納付書を用意してもらうのに、時間がかかる）ことを予想していましたが、混んでいる雰囲気ではなかったようです。

午後からは、大掃除。

今までにない部分にまで手を伸ばせて、賞味期限を数年過ぎて、外まで真っ黒になった缶詰（非常食用にと置いてあった）とか、ありえない物も発見。

机の引き出しで眠っていた物も、いろいろと処分しました。

会員証とか診察券も、たくさんあり過ぎです。

私はほぼ毎日通っていると思いますが、事務所の営業は今日で終了。

新年の営業は、1月7日から開始します。

2012. 12. 29

やっと年賀状を投函

今朝まで裏面が白紙だった年賀状、やっと投函です。

ニュースレターの第2号は年賀状として…と考えていましたが、普通の年賀状にするのがやっとでした。

思えば、11月の事務所内のドタバタは、10月に発行したニュースレターがきっかけだった気がします。

「ニュースレターがきっかけで仕事が増えた」という話ならいいのですが、「9月末」と期限を区切っていたホームページの原稿作成が10月にずれ込み、11月のCFP試験に向けた勉強に時間を使わないといけないのに、ニュースレターに気を取られ、そうこうしているうちに仕事が蓄積し、次々と新しい仕事が入ってくる状態に手が足りなくなり、CFP試験も棄権…。

メンバーの入れ替わりもある中、1年間事務所のエースとして頑張ってくれたのは、岸野司法書士でした。「あっという間の1年だった」中にも、いろいろな出来事が詰まっていて、「記憶に残る1年」にもなりそうです。

2012. 12. 30

期待感と錯覚

選挙が決まってから、じわじわと上がってきた日経平均は、最終日に10,395円まできました。

今年の値上がり率第1位には、なんとアイフル（44.1%）の名前が…。

新聞には「景気回復」の文字が出て、久しぶりに何かが変わるのかも？という雰囲気もありますが、安倍さんが何かを変えるのか、期待感は錯覚に終わるのか。

何となく、「景気が良くなれば、自分の生活が良くなるんじゃないか」と思ってしまいますが、それはおそらく錯覚でしょう。

厳し過ぎたところは緩めて、甘くし過ぎたところは厳しくして…。

そのさじ加減は難しいところですが、トップにいる人のバランス感覚は、組織の行く末を決めるほど重要なものです。

2012. 12. 31

今年366件目の記事に

一昨日のプロフェッショナル仕事の流儀、「イチロースペシャル2012」を見て、今年の電撃移籍が、「自分で下した決断だった」ことが伝わりました。

イチロー選手や巨人の小笠原選手は、同じ年。

引退発表した松井選手は1つ下になりますが、同世代のスター選手が「衰え」「年齢の影響で」と言われることに、世界は違えど複雑な思いがあります。

「人としての成熟期はもうちょっと先にあって、もっともっと先にあって、その時に選手でいたい、というのが夢ですよね」

「だいたい終わった時に何かを知る、というパターンが多い。それはちょっと寂しい。選手である時にそれをしっかりつかみたい」

というイチロー選手の言葉に共感。

その時その時に、自分で分かったように思っている、後にならないと見えないものがある。でも、分かっていないことが見えるようになるためにも、勉強を続けたいといけない。

今年のブログ、366件目（おそらく）の記事に、そんなことを書き残しておきます。

皆様、よいお年を！

吉田浩章の司法書士日誌（8）

<http://office-yoshida.way-nifty.com/top/>

著 者：office-yoshida

 **ココログ**出版

<http://cpub.cocolog-nifty.com/>

印刷・製本：あさひ高速印刷株式会社

協 力：ニフティ株式会社